

2017年度
事業報告書

2018年5月29日



目次

I. 法人の概要	5
1 設置する学校・学部・学科・研究科.....	5
2 当該学校の入学定員・入学数および収容定員・在籍数の状況.....	5
3 役員・教職員の概要.....	6
4 建学の理念・教育目標.....	6
5 法人の沿革.....	6
II. 長浜バイオ大学事業報告	7
【1-1】教育活動（学部）	7
1 学部卒業生数.....	7
2 新カリキュラムの実施.....	7
3 JABEE（日本技術者教育認定機構）認定に向けた取り組み.....	7
4 臨床検査学プログラム.....	8
5 実験動物技術者資格取得に向けた取り組み.....	8
6 語学力強化に向けた取り組み.....	8
7 主体的な学びを育成.....	8
8 FD活動.....	8
9 教育支援.....	8
【1-2】教育活動（大学院）	9
1 大学院修了生数.....	9
2 修了要件.....	9
3 大学院の新カリキュラム.....	9
4 研究室のHP立ち上げの取り組み.....	10
5 連携大学院の取り組み.....	10
【1-3】2019年度学部改編に向けて	10
【2】研究支援活動	11
1 外部資金（公的研究費・各種財団等）の獲得.....	11
2 知的財産.....	11
3 外部との共同研究等の推進.....	11
4 文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」採択.....	12
5 地域との産官学連携.....	12
【3】学生生活支援活動	14
1 経済的支援（奨学金・学費減免措置）.....	14
2 学生相談の強化.....	14
3 障害学生への教育支援.....	15
4 留学生の修学支援.....	15
5 学生表彰について.....	15
6 フレッシュヤーズキャンプ.....	15
7 命洗祭（学園祭）実行委員会、課外活動団体の支援.....	15
【4】就職支援活動	16
1 学部生・大学院生の就職決定状況と就職活動支援.....	16
2 公務員試験対策.....	24
3 保護者（会）との連携.....	25
4 学外諸団体との緊密な連携.....	25

【5-1】	学生募集	27
1	全体の入試結果	27
2	本学の入試結果	27
3	募集広報	28
【5-2】	高大連携推進事業活動	29
1	事業の全体結果	29
2	各事業の内容及び結果	29
【6】	学習・就業力支援活動	30
1	学習支援の取り組み	30
2	バイオ学習ワンダーランド（以下、WLと略す）の運用	31
3	入学前教育講座	31
4	キャリア科目の企画・運営	31
5	滋京奈地域の大学・産業界と連携した人材育成	32
6	就業力育成を目的とした学生自主活動支援	32
7	就業力育成支援	33
8	広報活動	33
9	学生自習室の管理・運営	33
【7】	教育・学術情報センター活動	34
1	資料の整備	34
2	環境の整備	35
3	他部署・講義との連携・協力	35
4	学外・他大学との連携	36
5	情報実習室の環境整備（新環境へのリプレース）	36
6	情報セキュリティの保全活動	38
7	メール添付ファイルに対するセキュリティ対策の実施	38
8	マイクロソフトとの包括ライセンス（Office365 サービス）	38
9	学生証のICカード方式変更と、即時発行体制の構築	39
【8】	IR活動	40
1	授業アンケートの実施	40
2	授業アンケートの見直し	40
3	IRコンソーシアム活動	40
【9】	地域連携・社会貢献の活動	41
1	長浜市内の小・中学校等の理科教育の充実	41
2	「長浜生涯カレッジ」等の生涯学習講座事業	42
3	滋賀県・長浜市のNPO法人等との連携による地域振興事業	42
4	滋賀県・長浜市他への学生団体による地域貢献活動	42
5	「TANAKAMI」こども環境クラブの実験指導	43
6	「わくわく学習会」での小学校対象実験講座	43
7	大府商工会議所役員研修	43
8	田村駅周辺整備ワークショップの開催	43
9	地域連携推進の取り組みを掌握・学内外への情報発信	44
【10】	国際交流の活動	44
1	西オーストラリア大学短期留学特別プログラム	44
2	留学生の受け入れ	44
3	交流協定締結に関して	44

【11】 施設設備等.....	45
1 既存施設の改修.....	45
2 研究機器等の整備.....	46
【12】 長浜バイオ大学保護者会.....	47
1 保護者会定期総会の開催（2017年6月4日）.....	47
2 保護者懇談会の開催（2017年6月4日）.....	47
3 役員会の開催（2017年5月12日、2018年2月10日）.....	47
4 助成事業.....	47
【13】 京都高齢者大学校.....	47
資料①入学者統計資料（過去4ヶ年）.....	48

I. 法人の概要

1 設置する学校・学部・学科・研究科

長浜バイオ大学	大学院	バイオサイエンス研究科
	バイオサイエンス学部	バイオサイエンス学科
		アニマルバイオサイエンス学科
		コンピュータバイオサイエンス学科

2 当該学校の入学定員・入学数および収容定員・在籍数の状況

(2017年5月1日現在)

【大学院 バイオサイエンス研究科】

○ 博士課程前期課程

入学定員	36名	1～2回生の収容定員	72名
入学数	46名	在籍数 1回生	46名
		在籍数 2回生	39名
		計	85名

○ 博士課程後期課程

入学定員	5名	1～3回生の収容定員	15名
入学数	2名	在籍数 1回生	2名
		在籍数 2回生	5名
		在籍数 3回生	8名
		計	15名

【バイオサイエンス学部】

● バイオサイエンス学科 (注) 2016年度より入学定員を148名から158名に変更

入学定員	158名	1～4年次生の収容定員	620名
編入学定員 (3年次生時)	4名	在籍数 1年次生	191名
入学数	184名	在籍数 2年次生	193名
		在籍数 3年次生	185名
		在籍数 4年次生	175名
		計	744名

※在籍数には留年生を含む

● アニマルバイオサイエンス学科

入学定員	50名	1～4年次生の収容定員	200名
入学数	58名	在籍数 1年次生	59名
		在籍数 2年次生	63名
		在籍数 3年次生	54名
		在籍数 4年次生	54名
		計	230名

※在籍数には留年生を含む

● コンピュータバイオサイエンス学科

入学定員	30名	(注) 2016年度より入学定員を40名から30名に変更	1～4年次生の収容定員	140名
入学数	35名		在籍数 1年次生	36名
			在籍数 2年次生	26名
			在籍数 3年次生	28名
			在籍数 4年次生	50名
			計	140名

※在籍数には留年生を含む

3 役員・教職員の概要

(2017年5月1日現在)

＜役員＞	理事	9名
	監事	2名
	計	11名

＜教職員＞	教員	67名	(教授23名、准教授20名、講師2名、助教3名、助手19名)
	職員	43名	
	計	110名	

4 建学の理念・教育目標

本学は、前身である京都人文学園から受け継いだ、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を教育理念としています。

5 法人の沿革

2002年	12月19日	学校法人関西文理総合学園認可
2002年	12月19日	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部バイオサイエンス学科認可
2003年	4月1日	長浜バイオ大学開学
2006年	11月30日	長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科認可
2007年	3月31日	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部完成
2007年	4月1日	長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科開学
2009年	3月31日	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部完成
2009年	4月1日	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科開設 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部コンピュータバイオサイエンス学科開設
2010年	3月31日	長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科 博士課程後期課程完成
2013年	3月31日	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科完成 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部コンピュータバイオサイエンス学科完成
2015年	4月1日	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部内に臨床検査技師養成プログラムを設置
2016年	7月21日	文部科学省による法人運営調査実施

Ⅱ. 長浜バイオ大学事業報告

【1-1】教育活動（学部）

長浜バイオ大学では、教育の質を保証するため、ディプロマポリシー（学位授与方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）を定め、2014年度入学生から新しく教育プログラムとしての新カリキュラムを編成した。2017年度は、新カリキュラムの完成年度として1年次から4年次に適用した。その実施に当たっては、専門知識、技術を系統的に教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することにより、長浜バイオ大学の学士にふさわしい人材の育成を図った。

1 学部卒業生数

2017年度に設置した教育課程に基づき、学生の履修登録とその指導、定期試験と成績評価、進級判定、卒業判定に係る業務を行い、2018年3月17日、以下の卒業生を送り出した。

2017年度学部卒業生数	263名
バイオサイエンス学科	165名
アニマルバイオサイエンス学科	52名
コンピュータバイオサイエンス学科	46名

2 新カリキュラムの実施

2017年度は、2014年度に学士課程教育の質保証をめざし、教育プログラムをベースとした新カリキュラムを構築した教育改革の完成年度（4年目）にあたり、以下の取り組みを行った。

(1) 3学科の教育プログラムについて、2017年度入学生に十分な説明を行った。

① バイオサイエンス学科

「創薬・機能物質プログラム」

「環境・植物制御プログラム」

「遺伝子・細胞新機能プログラム」

「臨床検査学プログラム」

② アニマルバイオサイエンス学科

「アニマルバイオサイエンスプログラム」

③ コンピュータバイオサイエンス学科

「情報生物学プログラム」

「医療情報技術プログラム」

(2) 2017年度入学生には、学部共通一般教育プログラムを中心として教養教育、基礎教育を、2016年度入学生と2015年度入学生には、学部共通専門コアプログラムを中心に学際的な専門科目教育を行った。

3 JABEE（日本技術者教育認定機構）認定に向けた取り組み

3学科の新カリキュラムは、JABEE教育課程として「バイオサイエンスコース」「アニマルバイオサイエンスコース」「コンピュータバイオサイエンスコース」の3コースとして設定し、それぞれに学習・教育到達目標を設けると同時に、成績評価に関わる基準を明確にした。新カリキュラムは、JABEE予備審査申請を行い2015年3月にJABEE課程の暫定認定を受けており、2018年度は本審査を受審することになる。な

お、本学の JABEE 履修審査基準に基づき、2017 年度生で JABEE の教育課程履修を許可した者は 154 名となった。

4 臨床検査学プログラム

2017 年度よりバイオサイエンス学科所属になった臨床検査学プログラムは、募集段階から「臨床検査学コース」としての募集が行われ、26 名の入学者があった。また、定員に空きがある場合のみ 2 年次編入を受け付けることになり、2018 年 2 月に学内募集を行った。2 名の応募があり、選考の結果、1 名を臨床検査学プログラム履修生として許可した。

5 実験動物技術者資格取得に向けた取り組み

本学は、日本実験動物協会から実験動物技術者受験資格認定校の資格を受けており、在学中に実験動物技術者認定試験を受験することができる。アニマルバイオサイエンス学科では、2012 年度より実験動物技術者試験対策を行っており、2017 年度は 1 級 5 名、2 級 26 名の合格者があった。

6 語学力強化に向けた取り組み

本学の教育目標の一つとして掲げている「語学力の向上」の実現を図るため、クラス編成テストと期末テストに TOEIC テストを導入している。2017 年度においても TOEIC テストの成績データを基に学力到達度別クラス編成を行い、教育効果の高い授業を行うことができた。さらに TOEIC のデータを分析することで本学英語教育の課題を発見し、教育内容の改善に繋げている。

7 主体的な学びを育成

主体的な活動を通じて自立的行動規範を身につけることを目的として、「バイオ実験夢チャレンジ」をカリキュラムに配置し、1 年次生から適用した。学生が主体的にバイオサイエンスを学ぶ力の育成を図った。

また、キャリア教育では、社会で生き抜いていくための力や社会に出て働くために必要となる力の育成を図っている。

8 F D 活動

教員個人の教育力を高めるため、また、組織的な教育力を高めるために以下の F D 活動を行った。

- (1) 関西 F D 連絡協議会主催の F D 研修会への参加
- (2) 学内 F D 研修会の開催

9 教育支援

1 年次基礎実験、2 年次応用実験、3 年次専門実験に T A を配置し、本学の基幹科目である実験・実習教育において教育効果の向上を図った。また、T A は大学院生への経済的支援という目的もあるが、T A となる場合は、自らの研究活動に支障をきたすことがないように、定められた制限以下になるよう配置した。

また、受講生数が多い講義科目においては、S A を配置し教育支援を行った。

【1-2】教育活動（大学院）

2013年度、大学院のディプロマポリシー（学位授与方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）を定め、博士課程における人材育成目標をより鮮明にした。

バイオサイエンス研究科博士課程前期課程では、教育・研究を通してバイオサイエンスの知識に裏打ちされた問題発見解決能力と自然に対する崇高な倫理観を持ち、社会を支え国際社会でも活躍しうる人材育成を目指している。

バイオサイエンス研究科博士課程後期課程では、バイオサイエンス分野における高度の知識と技術を習得し、人々の福祉と幸福の向上に貢献する様々な分野で指導的役割を担うことのできる高い能力を持った研究者、技術者および教育者の育成を目指している。

2017年度は、上記の方針に基づき、以下の教育を行った。

1 大学院修了生数

大学院開設11年目にあたる2017年度は、以下の修了生を送り出した。

2017年度博士課程前期課程修了生	31名
2017年度博士課程後期課程修了生	3名

2 修了要件

（1）博士課程前期課程

2014年度博士課程前期課程入学生より、課程修了にふさわしい質を保証するため、修了要件を追加した。教員の適切な指導の結果、対象者は全員修了要件を満たすことができた。また、修了要件の一つである学会への参加を促すために、学会参加費を補助する制度を設けた結果、2016年度は26.5%、2017年度は30.5%の利用となった。

（2）博士課程後期課程

博士課程後期課程では2016年度入学生より、博士課程修了にふさわしい質を保証するため、修了要件を追加した。修了要件の一つである学会への参加を促すために、学会参加費を補助する制度を設けた結果、2016年度は60.0%、2017年度は42.9%の利用があった。

3 大学院の新カリキュラム

（1）博士課程前期課程

バイオサイエンス研究科博士課程前期課程では、国内外における大学院生の将来の活躍に資するために、より良い視野にたつ思考力とプレゼンテーション能力を涵養していくことを目的とし、2016年度からアクティブラーニングを基盤とした演習科目を実施した。授業アンケートから見ても学生の講義への積極的な参加が伺われ、思考力とプレゼンテーション能力の向上につながっている。

（2）博士課程後期課程

博士課程後期課程については、より高い到達点を目指すために、夏期集中形式で英語によるプレゼンテーションやディベート能力を重視した修了要件を付加する新カリキュラムを実施した。夏期の報告セミナーでは、博士課程後期課程学生D2生4名が発表し充実した内容であった。

4 研究室のHP立ち上げの取り組み

本学大学院への学外からの志願者を増やすことを目的として、研究室全てのHPを立ち上げ、公開する計画を立てたが、年度末の段階では32研究室中12研究室にとどまっている。全研究室で公開できるように、次年度に継続していく。

5 連携大学院の取り組み

タカラバイオ株式会社との協定に基づく連携大学院の取り組みを継続した。2017年度からは「タカラバイオ実践バイオインフォマティクス」として履修科目として開講した。この講座では同社の研究者1名を本学の客員教授として任用し、大学院での講義を担当してもらった。

【1-3】2019年度学部改編に向けて

2019年度の学部改編に伴う新カリキュラムの実施に向けて、プログラム編成委員会を開催し、新ディプロマポリシー、新カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを検討した。2017年11月には、文科省に「事前相談」として申請し、名称変更、新学科設置の両方ともが届出申請で可能との許可を得た。2018年4月に正式な届出を行うことになる。なお、新学科名称は以下の通りである。

- ①フロンティアバイオサイエンス学科
- ②アニマルバイオサイエンス学科
- ③メディカルバイオサイエンス学科

【2】研究支援活動

1 外部資金（公的研究費・各種財団等）の獲得

（1）科研費申請書作成支援

2018年度の公募分より審査制度の大幅な変更が実施されることを踏まえ、例年の本学教員を講師に迎えて開催した科研費申請書作成説明会に加え、文部科学省担当者を講師に迎え、科研費制度変更についての学内説明会を開催した。また、学長および客員教授による申請書の書き方の直接指導を行った。さらに、研究推進機構事務室にて申請書の形式チェックを行った。

（2）2017年度の獲得状況

2017年度の公的研究費の受入は、科研費34件（新規3件・継続20件・転入2件・特別研究員奨励費2件・他研究機関分担7件）、科学技術振興機構受託研究等2件、日本医療研究開発機構受託研究・補助金3件、農林水産技術会議受託研究1件であった。

また、各種財団等が募集を行っている各種の助成金公募の案内を研究推進機構事務室より積極的に行い、2017年度の採択・受入は6件であった。

以上の受入総額は1億3491万円であった。

（3）学内共同研究助成制度と研究助成制度の充実

2017年度は、学内共同研究助成4件と研究助成制度3件を採択し、研究費総額1,000万円の支援を実施し学内研究の推進を図ったが、助成を受けた教員13名（共同研究者6名を含む）のうち1名が2018年度の科研費を新規に獲得した。また、13名のうち2名は2017年度中に各種財団等の助成金を獲得した。

（4）開学10周年記念募金に基づく先鋭的研究助成制度の実施

開学10周年記念募金に基づく、本学の10年後の研究基盤を支える中堅クラスの教員の養成を図ることを目的に、先鋭化した研究を支援する先鋭的研究助成制度1件を採択し、2017年度の研究費として500万円の支援を実施した。本制度に基づく支援は、2018年度まで実施する。

2 知的財産

2017年度は特許の登録（成立）、および共同出願を含む新規出願案件は無かったが、2017年度末に研究推進機構委員会において承認された、職務発明の特許を受ける権利等の承継案件1件（理事会承認手続中）を予定している。

3 外部との共同研究等の推進

（1）2017年度の受入状況

2017年度の企業との共同研究等の開発件数は、共同研究7件、受託研究5件、技術指導2件であった。また、企業からの研究活動への寄付が4件あった。これらの受入総額は2013万円であった。

（2）主な外部との共同研究

- ・高感度蛍光検出によるウイルス検出装置の開発
- ・粒子分画能力を持つ金属メッシュを利用した細胞分離培養装置の開発
- ・梅の実から単離した酵母菌による新ブランドの清酒開発
- ・エコフィード餌の開発によるピワマスのブランド化
- ・植物工場での栽培法の開発
- ・植物の生育促進法開発

- ・有機資材による植物の根圏微生物叢解析

4 文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」採択

2017年度文部科学省「私立大学研究ブランディング事業（タイプA）」において、新たなグリーンイノベーションの発信と地域の産業振興への貢献を目指す本学の研究ブランディング事業「フレキシブル植物工場システムと先端バイオ技術を基盤とした新たなグリーンイノベーション」が支援対象校として採択された。

本事業では、本学が構築したフレキシブル完全閉鎖型植物工場と本学の研究技術と研究設備を活用し、長浜地区の伝承野菜である尾上菜の実用化技術の開発や、長浜で生産されている脂肪代謝物質を含むアイスプラントとカルノシン酸を含有するセージの高機能化技術の開発を中心に実施している。また、本事業遂行のための情報収集の一環として、2017年12月18日には筑波大学の柴博史教授を迎えての研究ブランディングセミナーを開催した。

5 地域との産官学連携

- (1) バイオビジネス創出研究会（長浜バイオインキュベーションセンター）との連携
「バイオビジネス創出研究会」は、本学隣に設置されている長浜バイオインキュベーションセンターを活動拠点として、本学のシーズ技術を基に新たなバイオ産業を長浜市に創出するための活動を進めている。2017年度は本会との積極的な連携を日常的に進める取り組みや長浜バイオクラスターネットワーク運営協議会への参加を通じて、本会に問い合わせられる技術相談のうち、本学との共同研究（1件）および技術指導（1件）への発展に繋げることができた。

また、本学に隣接する長浜サイエンスパークの入居企業で構成される「長浜サイエンスパーク運営協議会」の会長に本学学長が就任し、担当事務局に本学研究推進機構事務室が参画するなど、運営面より本協議会への貢献を進めている。

さらに、「滋賀バイオ産業推進機構（SBO）」および「長浜アカデミックサポートチーム（NAST）」に本学教員が参画し、企業への本学の研究内容の紹介、および企業からの技術相談や企業への移転可能なシーズの提案を通じて、長浜市での新たなバイオ産業創出に努めている。

- (2) びわ湖環境ビジネスメッセへの出展

2017年度は本学教員が開発に参加している診断装置、湖北の希少動物保護活動、ビワマスの餌開発、新型医療用接着剤開発の展示を行い、来場企業や長浜地域住民、および一般参加者へ向けて、本学の研究シーズについての紹介を行うことができた。

- (3) 滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムとの連携

滋賀県における科学技術に特化した新産業創出の取り組みを推進することを活動のコアとする、2017年4月12日に結成された「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」に加盟した。その取り組みの一環としてビジネスコンテスト（滋賀テックプラント）が開催され、そこに本学教員がエントリーし、企業賞など3つの賞を獲得することができた。これを契機に、企業との共同研究や事業連携へ発展するに至っている。

- (4) ビワマスの餌開発

2017年度は、天然由来で安価で入手できる材料を用いて開発した飼料にてビワマスに与える給餌試験を、長浜市内の養殖業者と共同で行われた。結果、生育が早く進み、出荷期間を約2ヶ月短縮することができただけでなく、2017年6月の食味試験では天然ものに劣らないと好評を博した。また、この養殖ビワマスのブランド化を図る

べく、学内公募により「ビワトロマス」と命名され、養殖業者による商標登録出願が行われた。

(5) 湖北の希少動物保護活動

本学近隣の田村山に生息している絶滅危惧種・カスミサンショウウオの保護活動を契機に地元自治会や地元企業等と協力して設立された「田村山生き物ネットワーク」に、本学教員が会長として活動している。また、木之本でのオオサンショウウオの発見を契機に滋賀県全域での保護活動を目的に設立された「滋賀のオオサンショウウオを守る会」に、本学教員が副会長として活動している。主な活動として、各種生態調査や繁殖保全活動をはじめ、各方面での啓発活動など継続的に活動を行っている。2017年度には、9月10日「古橋の大谷川の生き物調べ」、10月14日「山を活かす、山を守る、山に暮らす交流会2017」、10月18日～20日「びわ湖環境ビジネスメッセ」、12月17日「古橋のオオサンショウウオを守るシンポジウム」などの場に参加し、調査報告や活動紹介等の活動も行っている。また、2017年度に滋賀のオオサンショウウオを守る会に、本学は法人会員として入会した。

【3】学生生活支援活動

1 経済的支援（奨学金・学費減免措置）

日本人学生・留学生を対象に、総額 48,997,000 円（対前年比 7.6%増）の事業規模で経済的支援（奨学金・学費減免措置）を実施した。詳細は昨年と同様に以下のとおり。

(1) 「家計急変奨学金」

「経済的な理由」により学業を継続するのが困難になる学生の特別支援策

(2) 「学費支援奨学金」

大学創立 10 周年記念募金を基金として、2015 年度より新たに創設。修学の意志があるにも関わらず、家計状況により修学が困難な学生を対象に、従来の「家計急変奨学金」基準に該当しなかった学生に対する経済的支援。

(3) 学内奨学金

①日本人学生対象（大学院・学部生）

(a) 入学試験成績優秀者学費減免（学部生）

(b) 学内奨学金支給（大学院・学部生）

(c) 大学院入学金免除

②留学生対象（大学院・学部生）

(a) 学費の減免措置（大学院・学部生）

(b) 学内奨学金支給（大学院・学部生）

(c) 入学金免除（大学院・学部生）

(4) サポーター奨学金制度

企業からの「サポーター奨学金」へのご協力により、就学意欲がありかつ成績優秀者（大学院・学部生）を対象とした経済的支援。

2 学生相談の強化

学生ニーズの多様化、学生を取り巻く環境の変化などに伴い、学生生活での人間関係やこころの相談など、学業を継続するために「こころ」のケアは必須となっている。2017 年度は開講期間中に週 3 日、「学生相談室(カウンセリングルーム)」で臨床心理士によるカウンセリングを実施した。新入生オリエンテーションでの周知、「学生相談室だより」の発行、さらにカード型用紙での PR、さらに教員からの個別の薦めも奏功し、相談件数は前年比 1 割増であった。

相談内容は、個別ニーズ、休学や退学の可能性がある学生の相談対応はもとより、就職活動をはじめとした進路選択に関することまで多岐に渡っており、特に修学に関わる支援においては、教員や他部署(教務担当、就職・キャリア担当、学習支援担当)との連携を適宜図りつつ学生支援を行った。

また教育効果向上を図るための教職員研修を実施した。この機会は、学生をサポートするにあたって教職員間の連携を喚起する契機になり、保護者相談や、教職員からの相談要請（学生の日常対応で悩み）はじめ、学生支援への多様な対応を促すなどの効果があった。

3 障害学生への教育支援

2016年度より「障害者差別解消法の合理的配慮規定等」が施行されたことに伴って、新たに障害学生支援委員会を設置している。障害支援の相談対応については、本委員会のもと、担当教員と障害学生支援担当を中心に関連部署との連携・協働を図りながら、障害学生に対する合理的配慮について協議し、大学として可能な支援を検討して該当学生との合意を図りつつ学生支援を行った。

4 留学生の修学支援

「留学生修学サポートプログラム」は前年に引き続き以下の支援策を実施した。

- ・留学生相談室の開設や留学生支援スタッフの配置
- ・レポートや論文作成における日本人学生によるチューター制度
- ・入学後の履修や生活面支援のピアチューターの活用
- ・大学内や地域での国際交流イベントへの参加

上記支援を通じて、留学生同士の交流はもとより、留学生と日本人学生との交流を活性化するなど、留学生の定着に寄与した。

5 学生表彰について

優れた研究、社会貢献をした学生を対象とする「長浜バイオ大学学生表彰要綱」に基づき、2017年度は6件の個人に表彰を行った。

6 フレッシュヤーズキャンプ

新入生全員を対象に、オリエンテーション期間に1泊2日の合宿形式で「フレッシュヤーズキャンプ」を実施した。これは、新入生が大学生活に早く適応するために、a) 新入生同士の友人作り、b) 教員との交流、また c) 新入生と在学生との交流機会を提供すること、さらに d) の地域社会での魅力も体感することを目的にしている。新入生は99%が参加しており、アンケート集計からも、これら取組を通じて上記目的を達成しており、新入生同士の仲間意識を醸成すること、大学・地域社会への帰属意識を高めること、さらに新入生の課外活動参加の促進に大きく寄与している。

7 命洗祭（学園祭）実行委員会、課外活動団体の支援

(1) 命洗祭（学園祭）実行委員会

学園祭の企画立案にあたり、学生の自主性を尊重する一方で、実行委員会と協議の上、地元地域において地域住民の参加を促すプログラムを用意すること、地元企業・団体への協賛金依頼等の協力依頼に重点的に取り組むこと、上記視点に基づいて地域連携を図ることを方向づけて支援を行った。

(2) 課外活動団体の支援

団体登録にあたって、新規・継続ともに活動・予算計画の妥当性につき審議を行い、自主管理・自発的活動を促しつつ学生支援委員会のもとで支援を行った。

【4】就職支援活動

本学の就職支援は、ディプロマポリシーに基づいた教育活動を通して学生の自己成長を促しながら、就職活動に取り組めるよう育成していくことを重視している。そのため、カリキュラムポリシーによる教学指導、就業力育成支援をはじめとしたキャリア教育との連携強化を図りながら、学生と企業との適切なマッチングを促進できるように取り組みをすすめている。また、その成果目標としては、高い就職実績と就職先への満足度の向上を図り、社会的評価を受け学生募集に貢献できるよう努めている。

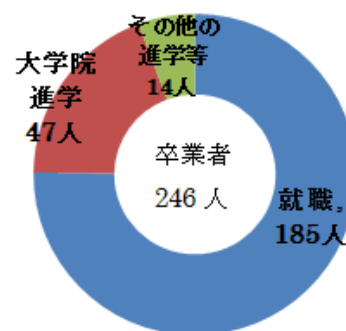
1 学部生・大学院生の就職決定状況と就職活動支援

2017年度は前年同様3月広報解禁、6月選考開始のスケジュールでの就職活動支援となった。企業の採用意欲は3ヶ年連続で高くなったが、医薬・化学・食品などの製造業での求人数の伸びは前年より小さくなった。しかし、医薬・化学・食品を取り扱う商社や流通での求人数が大きく増加し、全体的には本学への求人数は3月求人公開の当初から前年を上回り、年度合計10,464件(対前年比110%)と前年の過去最高求人数をさらに上回る件数となった。また、スケジュール前倒しで内定出しの時期が早まった前年であったが、2017年度はそれ以上に中堅企業中心に早い内定出しとなった。学部第12期生の就職希望者は前年より1割程増加したが、10月までの内定率は83.2%(前年度82.1%)、最終の就職決定率は98.4%(決定者185名/希望者188名。前年度決定率は98.2%)と前年の3学科設置以降最高の就職決定率を更新する結果となった。大学院博士課程前期課程第10期生の活動は活発で就職決定率は100.0%(決定者28名/希望者28名。前年度決定率96.9%)となった。

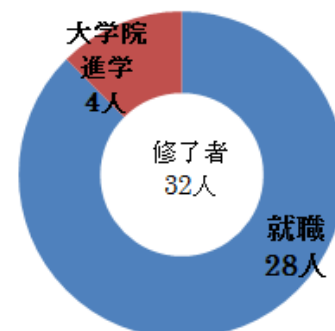
卒業生アンケートでの「就職決定先についての満足度」は95.1%(前年95.5%)と引き続き高い結果が得られた。

※学部・修士就職決定企業内訳詳細は次ページ参照。

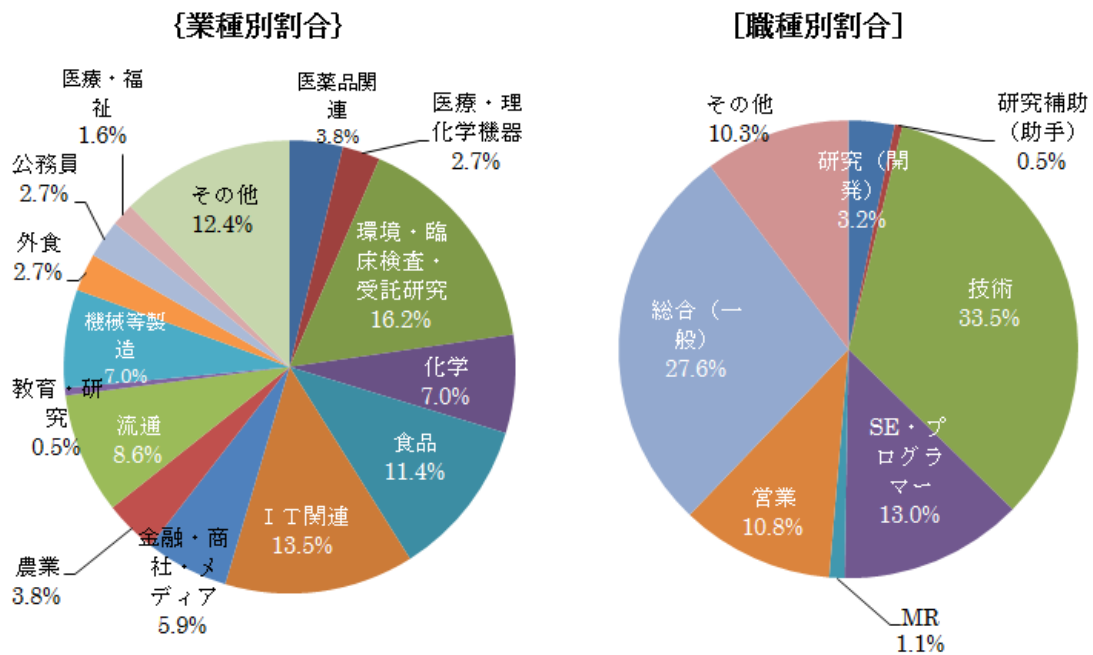
学部 第12期入学生	
卒業者数	246
大学院進学者	47
その他の進学者	14
就職決定者	185 …(a)
就職希望者	188 …(b)
就職決定率	98.4 …(a)/(b)



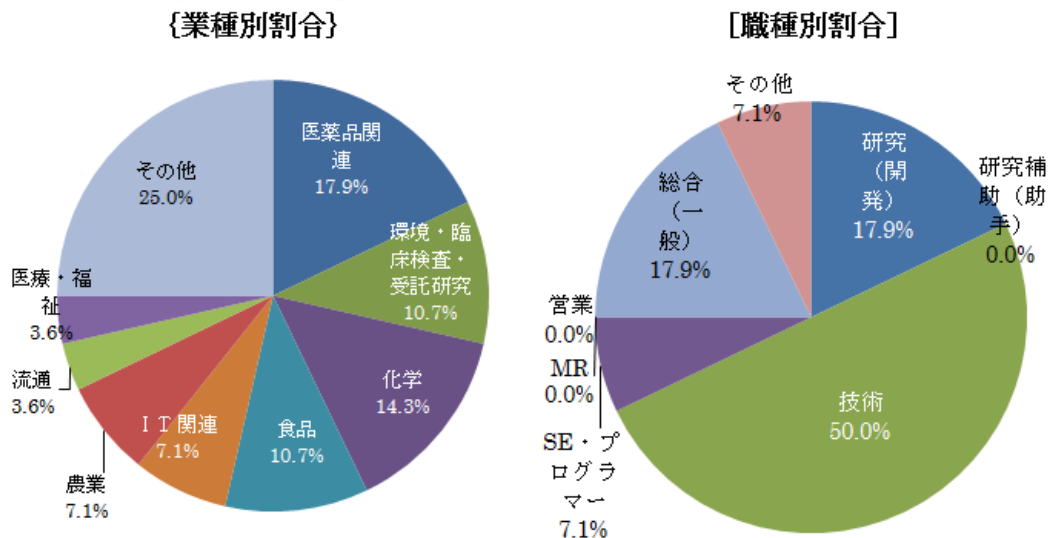
大学院博士課程前期課程 第10期入学生	
修了者数	32
後期課程進学者	4
その他の進学者	0
就職決定者	28 …(a)
就職希望者	28 …(b)
就職決定率	100 …(a)/(b)



学部第 12 期生の就職決定企業内訳



大学院博士課程前期課程 第 10 期生の就職決定企業内訳

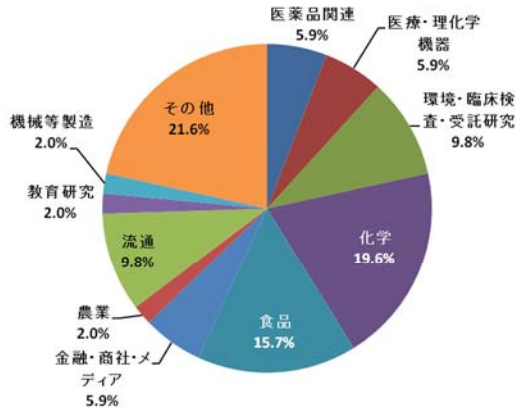


学部第 12 期入学生は、卒業後の活躍分野に合わせた「新しい教育プログラム」での学修を得て卒業する初年次生であった。専門教育として選択したプログラムでの学修が就職先業種・決定先に繋がる結果ではあったが、業種別の企業求人数に大きな違いがあるため、

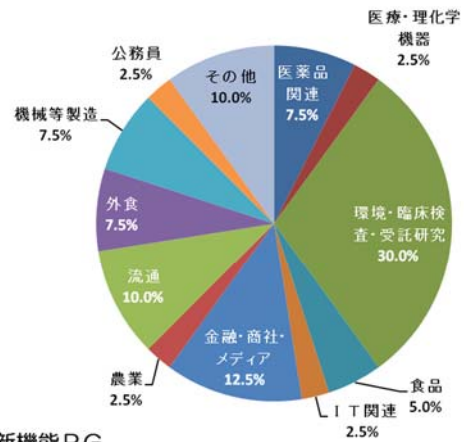
バイオサイエンス学科の各プログラム選択者の決定先は多岐の業種となった。

※プログラム・学科別決定企業業種内訳詳細は次ページ参照。

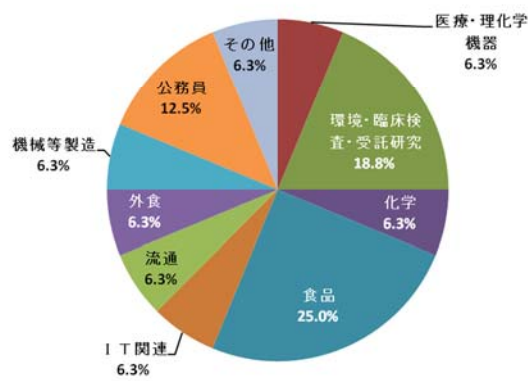
創薬・機能物質PG



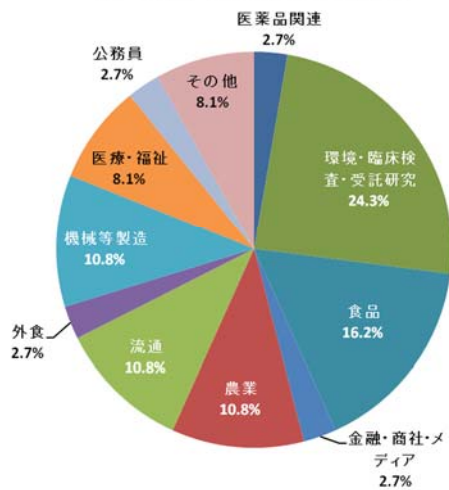
環境・植物制御PG



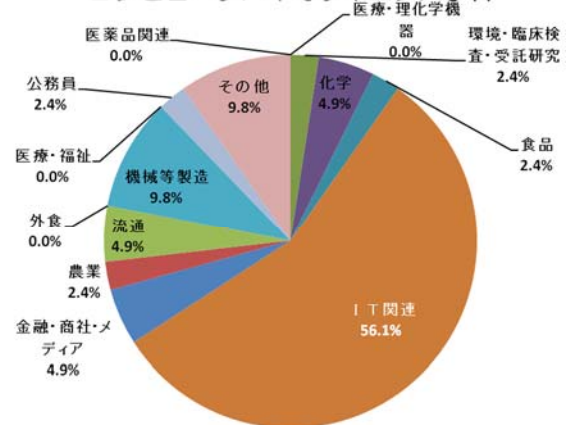
遺伝子・細胞新機能PG



アニマルバイオサイエンス学科



コンピュータバイオサイエンス学科



(1) 個別指導の強化

①組織的な情報共有による個別指導の強化

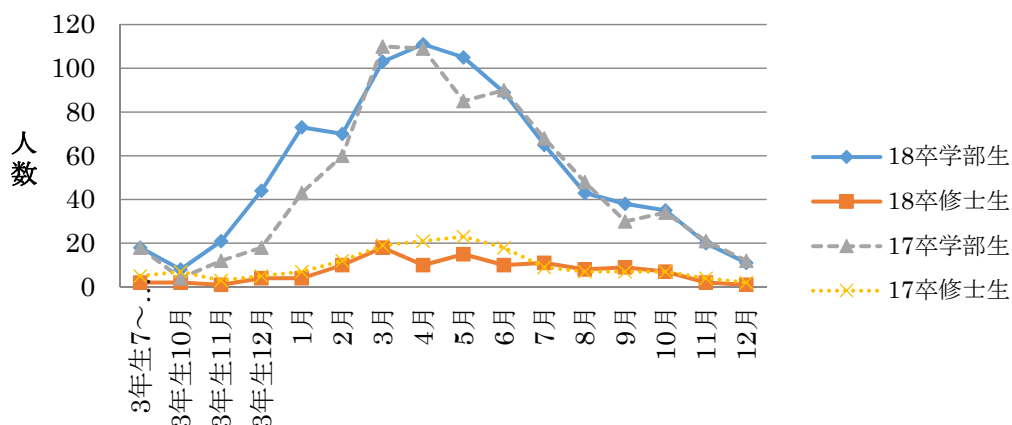
就職活動に取り組むすべての学生に適宜・的確な指導が出来るように、就職・キャリア各コース担当スタッフとキャリアカウンセラーは、学生の指導情報や企業求人情報を共有し、「履歴書・エントリーシート作成」支援を通じた「自己分析や企業理解」の促進を行い、選考の要となる個人面接に向けた「面接対策」を重視して就職支援を行った。さらに、就職・キャリアサポートセンターへの来室利用が少なく就職活動が長期化した学生には、電話やメール、封書・ハガキ等で相談来室を促すとともに、企業求人情報や企業説明会を適宜案内した。

また、研究室指導教員と連携した指導が行えるように各学科（コース）担当の就職委員との隔週定例会議を開催し、学生の就職活動の進捗状況や求人情報を共有した。

②模擬面接および学生相談での外部キャリアカウンセラー配置

本学の就職支援での強みである「マンツーマンの相談・指導」による高い就職決定率を保障するため、外部キャリアカウンセラーの常駐体制を引き続き強化・継続した。全体の採用スケジュールに変更はなかったが、個別企業の採用スケジュールが前年よりさらに前倒しされたため、個別相談や模擬面接希望が早期に集中した。そのため今年度も外部カウンセラーの延長勤務や模擬面接の複数体制での対応を行った。

月ごとの来室実人数の推移



※修士就職希望者数は、18卒修士生 28名/17卒修士生 32名

■キャリアサポートセンターのべ利用数 (学部) 17年度 2,012件/16年度 1,849件
(修士) 17年度 246件/16年度 576件

■模擬面接のべ実施件数 (学部) 17年度 832件/16年度 682件
(修士) 17年度 93件/16年度 85件

③スタッフ機能の強化

学生の多様なニーズに即応した就職支援を行うため、就職・キャリア担当職員のスタッフ機能を強化する目的で、職員1名をCDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)資格取得講座に派遣した。新任職員については、業務時間内で研修としてキャリア教育ユニットの学部生講義や3年生就活支援講座への参加を保障した。

(2) 学部生・大学院生共通の就職支援

①「就活支援講座」の実施

学部3年次生および修士1年次生を対象に、前期6月から「就職ガイダンス」を含め公募制インターンシップ実習に備えた支援講座を4回開講、後期10月から翌年1月末まで13回の「就活支援講座」を開講した。また、メイン講座と併せて個別演習中心の「サブ講座」を別途7回開講し、就職活動準備を細やかに支援した。

今年度から支援講座への参加促進を図るため、求人情報媒体業者の協力を得て、講座告知ハガキを作成し、開催日時の徹底と出席呼びかけを行った。その結果、就職活動への当事者意識が低い前期において、特に講座参加学生が大幅に増加した。後期からの講座参加数は、学部生では昨年並みの就職希望者の約75%であったが、修士生については例年よりも参加率が高く約90%が参加した。

【前期】就活支援講座

「就職ガイダンス」	210名（2016年度は98名）
「ビジネスマナー講座」	142名（2016年度は49名）
「自己分析・応募書類の書き方」	132名（2016年度は51名）

※年間講座内容については後掲。

②企業説明会、業界講演会

学部4年次生および修士2年次生対象の学内での「企業説明会」は、対象学生の就職活動期間である2017年3月から2018年3月末までの期間で、延べ120社の申込みを頂き、うち38社の開催が成立した。企業説明会の開催数は前年横ばいであったが、申込みの延べ社数は前年より1.4倍と増加し、企業との交流会など企業と接触時の積極的な依頼や郵送による依頼が増加に結びついた。学生の参加は延べ147名（実人数は102名）が参加し、うち延べ25名が学内企業説明会を契機に内定を獲得することが出来た。今年度より学内メールを活用した学生への告知を行い、参加学生数の延べ・実人数共に前年より1.5倍強の参加となった。

学部3年次生および修士1年次生を対象に実施した「業界講演会」では、2017年11月から2018年1月末までに20社の企業を招聘・開催し、延べ526名（実人数は147名）の学生が参加した。また、「合同業界研究会」は、採用実績のある企業・官公庁を中心に46社を招聘・開催し、2月下旬の2日間で開催した。今年度から企業の負担軽減を目的に説明時間を40分5回から30分5回に変更し、大学指定のタイムテーブル制で実施した。企業担当者のアンケート結果や学生の様子から今回のタイムテーブル制が適切であったと思われる。2日間の参加学生は延べ262名（実人数は154名）、前年より0.7倍と減少しているが、参加企業の志向が異なる臨床検査学PG学生の減数分を考慮すると前年横ばいであった。なお企業ブース訪問件数は、前年0.8倍の843件であった。

③学外合同企業説明会へのバスツアー&現地指導

学外合同企業説明会は、採用意欲のある企業との直接接触の場であり、学生の応募機会を創出する場となるため、適宜、学内就職掲示板やWeb掲示板への一覧表掲出や求職希望地域に応じた個別案内など積極的な参加奨励を行った。また、地元への人材輩出を促進するため、滋賀県内で開催される説明会についての広報を強め、就職・キャリア担当スタッフを派遣し現地指導による激励を行った。参加学生は説明会参加を機に就職活動が促進され、以降の内定獲得の重要な契機となった。

学部3年次生及び修士1年次生対象の「合同説明会バスツアー」は、2月の「学内業界研究会」と連続して3月の就職活動スタート期に大規模な大阪会場で2回実施し、早期からの積極的な就職活動の促進を図った。

④公募制インターンシップ(短期も含め)への参加促進

採用活動期間が短縮された各企業は、広報・選考期間が短くなり、その対策として学部3年次生および修士1年次生対象に、秋・冬「短期インターンシップ

(セミナー型)」を開催することで早期から企業理解の促進と3月からの採用選考に繋げていこうとする企業が年々増加している。就職担当としては、インターンシップに参加することで「企業理解が深まり、求職意欲も認知してもらえる」ことで内定に繋がる可能性を高められると考え、求職先として考える企業についてはインターンシップから積極的に応募・参加するよう指導・支援した。インターンシップ開催情報を学内就職掲示板に適宜提供するとともに、今年度は新規支援講座として「インターンシップ徹底解説」の開講や「インターンシップ合同企業説明会 in 京都」のバスツアーも継続実施し、インターンシップ参加の促進を積極的に行った。

また、滋賀県インターンシップ推進協議会、岐阜県インターンシップ推進協議会の加盟継続と会員として地元企業との関係を強化し、採用情報収集と学生へのインターンシップ含めた企業情報の提供を行った。

⑤その他特別講座・セミナーの実施

未内定者を対象とした特別講座・セミナーについては、常駐キャリアカウンセラーと就職・キャリア担当により開催するとともに、個別相談での指導や求人企業斡旋を中心に行い、早期の内定獲得を図った。

⑥就職・キャリアサポートセンター、学内Web就職サイトの利用促進

サポートセンターの利用、学内Web就職サイトの活用について、就活支援講座での就職ガイダンスにおいて繰り返し案内した。また、「就活の手引き(冊子) CAREER GUIDE BOOK」を刷新、学生の利便性を考慮し、予定を書き込むためのカレンダーページを追加、また、就職・キャリアサポートセンターへの相談を促すため、利用方法などを記載した紹介ページも付加した。

(3)学部生への就職活動支援

学部生に向けて、以下の支援講座を開催した。

【学部生向け就活支援講座】 ※は修士生と共通講座

日時	テーマ	内容・ねらい
2017/6/6(火)	※ 就職ガイダンス	就職課からのガイダンス。就職状況、採用スケジュール、必要な準備、インターンシップ、後期の支援内容、夏休みに取り組んでほしい課題など。
2017/6/13(火)	※ 業界・企業の探し方	業界や企業の広げ方を知り、インターンシップに参加する目的を明確にする。
2017/6/27(火)	※ ビジネスマナー講座	インターンシップに参加するにあたって必要なマナー。特に、企業へのコンタクトの取り方(メール、電話)、企業訪問時の対応等を中心に実施。
2017/7/11(火)	※ 自己分析・応募書類(ES、履歴書)の書き方	自己分析を行い、夏季・秋季インターンシップ(自由応募型、採用直結型)の応募書類を書くために必要な、文章に盛り込む必要要素、伝わりやすい文章構造などについて解説。
2017/7/4(火)	※ 公務員ガイダンス	本学の公務員実績、公務員試験対策講座案内、公務員の仕事紹介、公務員試験の概要と準備。
2017/10/3(火)	※ 就活準備スタートセミナー	就活スタートにあたって、本学の就職支援メニューと支援スケジュールについて
	※ 職務適性テスト	仕事を選ぶうえで、自分の特性や性格の特徴を見つける。実施日。
2017/10/10(火)	※ 自己分析①	自己分析の必要性、自分の特徴を見つける
2017/10/17(火)	※ 職種研究・仕事の選び方	仕事を選ぶために必要なこと(求められる能力・資質や価値観)
	※ 身だしなみ・メイクアップ講座	男女それぞれの好感度アップのための身だしなみやメイクについて
2017/10/24(火)	※ 自己分析② (職務適性テストの解説)	解説日。
2017/10/31(火)	※ 筆記試験対策(ガイダンス)	筆記試験の種類とその対策について
2017/11/7(火)	※ SPI模試	筆記試験で多く利用されているSPI試験の対策模試を受験。
2017/11/14(火)	※ 業界・企業研究①	業界・企業研究の目的。各業界についての解説や会社を見る視点など。業界・企業分析の仕方や情報の集め方について。
	※ 冬のインターンシップの選び方	インターンシップ先を選ぶ視点と、インターンシップの活かし方。参加する上での心構えと注意点など。
2017/11/21(火)	※ 業界・企業研究②	業界・企業研究の目的。各業界についての解説や会社を見る視点など。業界・企業分析の仕方や情報の集め方について。
2017/11/28(火)	学部 ES・履歴書の書き方	自己PRや志望動機など。文章に盛り込む要素、伝わりやすい文章構造、文章表現のコツ等。
2017/12/5(火)	学部 ビジネスマナー講座	ビジネスマナーの必要性、就活の場面での様々なマナーについて(説明会、メール、電話、送付状やお礼状など)。第一印象、身だしなみ、ビジネススタイルチェック
2017/12/12(火)	※ 面接対策講座	面接対策(個人面接・集団面接)と準備。
2018/1/9(火)	学部 グループディスカッション対策	グループディスカッションの考え方や想定される企業への貢献の仕方等。
2018/1/23(火)	※ 直前対策セミナー	今後の就職支援メニューとサポートセンターの利用について、学内企業説明会への参加の仕方等。証明書の発行、健康診断の日程、複数内定の場合の対応、就職試験による追試申請について等

【就活支援サブ講座】

日時	テーマ	内容・ねらい
2017/11/21(火)	※ 先輩の話聞く会	4年生の内定者より就職活動の体験談を話してもらう。
2017/12/6(水)	※ ES・履歴書作成演習	自己PR
2017/12/12(火)		学生時代に最も打ち込んだこと
2017/12/20(水)	※ 面接マナー・集団面接演習	面接時のマナーを解説(入室の仕方など)。
2017/12/26(火)		一次面接などで行われる事が多い、集団面接について流れや注意点などを説明。
2018/1/9(火)	※ GD・GW演習	実際にGD・GWをやってみる。
2018/1/16(火)		
2018/1/10(水)	学部 SE仕事体験講座 (コンピュータ学科対象)	IT企業への応募に向けて理解を深めるための講座 (システムエンジニアの仕事理解と動機づけ)
2018/1/12(金)		
2018/1/17(水)		
2018/1/19(金)		

(4) 大学院生への就職活動支援

大学院生は研究職、技術職への志向が強く、また学部生と比べ企業側の期待や求められるものが自ずと高くなる。就職活動に関する一般的な知識や理解強化の部分は学部生と共通とし、職種研究講座や実践的な講座を院生独自に実施することで、大学院生としての期待に応えられるようにすると共に、実践講座を本講座に導入することで研究活動への負担軽減を図った。

【院生向け就活支援講座】 ※は学部生と共通講座

日時		テーマ	内容・ねらい
2017/6/6(火)	※	就職ガイダンス	就職担当からガイダンス。就職状況、採用スケジュール、必要な準備、インターンシップ、後期の支援内容、夏休みに取り組んでほしい課題など。
2017/6/13(火)	※	業界・企業の探し方	業界や企業の広げ方を知り、インターンシップに参加する目的を明確にする。
2017/6/27(火)	※	ビジネスマナー講座	インターンシップに参加するにあたって必要なマナー。特に、企業へのコンタクトの取り方(メール、電話)、企業訪問時の対応等を中心に実施。
2017/7/11(火)	※	自己分析・応募書類(ES、履歴書)の書き方	自己分析を行い、夏季・秋季インターンシップ(自由応募型、採用直結型)の応募書類を書くために必要な、文章に盛り込む必要要素、伝わりやすい文章構造などについて解説。
2017/7/4(火)	※	公務員ガイダンス	本学の公務員実績、公務員試験対策講座案内、公務員の仕事紹介、公務員試験の概要と準備。
2017/10/3(火)	※	就活準備スタートセミナー	就活スタートにあたって、本学の就職支援メニューと支援スケジュールについて
	※	職務適性テスト	仕事を選ぶうえでの、自分の特性や性格の特徴を見つける。職務適性テスト実施日。
2017/10/10(火)	※	自己分析①	自己分析の必要性、自分の特徴を見つける
2017/10/17(火)	※	職種研究・仕事の選び方	仕事を選ぶために必要なこと(求められる能力・資質や価値観)
	※	身だしなみ・メイクアップ講座	男女それぞれの好感度アップのための身だしなみやメイクについて
2017/10/24(火)	※	自己分析②(職務適性テストの解説)	解説日。
2017/10/31(火)	院生	職種研究	職種研究(研究、品質管理、技術系など) 本学大学院生の多くが志向する研究開発職、品質管理などの職種について理解を深める。
	※	筆記試験対策(ガイダンス)	筆記試験の種類とその対策について
2017/11/7(火)	※	SPI模試	筆記試験で多く利用されているSPI試験の対策模試を受験。
2017/11/14(火)	※	業界・企業研究①	業界・企業研究の目的。各業界についての解説や会社を見る視点など。業界・企業分析の仕方や情報の集め方について。
	※	冬のインターンシップの選び方	インターンシップ先を選ぶ視点と、インターンシップの活かし方。参加する上での心構えと注意点など。
2017/11/21(火)	※	業界・企業研究②	業界・企業研究の目的について。各業界についての解説や会社を見る視点など。業界・企業分析の仕方や情報の集め方について解説。
2017/11/28(火)	院生	グループディスカッション対策・演習	グループディスカッション・グループワークの考え方や想定される企業への貢献の仕方等。実践的に学んでいく。
2017/12/5(火)	院生	ES・履歴書の書き方1	ES・履歴書の書き方について学ぶ。幅広視点でES・履歴書の書き方、考え方が学べるように、12月12日(火)とは内容、担当講師が異なる。
2017/12/12(火)	院生	ES・履歴書の書き方2	ES・履歴書の書き方について学ぶ。幅広視点でES・履歴書の書き方、考え方が学べるように、12月5日(火)とは内容、担当講師が異なる。
	※	面接対策講座	面接対策(個人面接・集団面接)と準備。
2018/1/16(火)	院生	ビジネスマナー講座・面接演習	ビジネスマナーの必要性、就活の場面での様々なマナーについて(説明会、メール、電話、送付状やお礼状など)。第一印象、身だしなみ、ビジネススタイルチェック。面接の流れも体験する。
2018/1/23(火)	※	直前対策セミナー	今後の就職支援メニューとサポートセンターの利用について、学内企業説明会への参加の仕方等。証明書の発行、健康診断の日程、複数内定の場合の対応、就職試験による追試申請について等の案内。

(5) 臨床検査学PG生への就活支援

①医療機関の採用スケジュールに対応した支援提供

3年次6月に医療機関の採用スケジュールと医療機関以外で活躍できる業界理解「ガイダンス」12月に「SPI模試」2月に病院求人検索、求人Web媒体登録の「ガイダンス」を開講した。また、「面接対策」としてはキャリアカウンセラーに医療機関面接情報を研修いただき、随時模擬面接対応を行った。

②病院見学の受入依頼・手続きの支援

3年次の夏期休講期間と冬・春期休講期間を利用し、学生各自が関心を持つ病院への見学は、医療現場・臨床検査の仕事理解を深め、その後の学修意欲を高めることに繋がる。

就職・キャリアでは、担当教員と連携し夏期休講期間に13名23病院、冬・春期休講期間に16名28病院、併せて20名(実人数)の学生が希望病院での見学が出来るように支援を行った。また、見学後、担当教員による振り返り指導が行われた。

(6) 留学生の就職活動支援

2018年3月卒業・修了の留学生は、学部生3名、大学院生4名、2017年9月修了の留学生は大学院生2名であった。日本での就職を希望する学生は学部生1名、大学院生の5名と少数であったので、個別支援を中心とした就職支援を行った。支援内容としては日常の求人情報提供をはじめ、留学生対象の合同企業説明会への参加奨励、外国人雇用サービスセンターへの登録と利用および求人情報の検索などであった。

進路状況については、就職希望の学部生1名、大学院生5名が内定を獲得して日本で就職、学部生1名が日本での就職をせず帰国した。進学を希望する学部生1名、大学院生1名は全員日本での大学院進学を果たした(本学大学院への進学が2名)。

(7) 企業との関係強化と求人情報の取得

①求人依頼・PR活動

民間企業・官公庁などに対し前年並みの3,688件、臨床検査技師を対象に医療機関へ359件の合計4,047件に求人依頼を行った。また、年度途中においては、採用活動の前倒しや就職決定時期の早期化の状況に鑑み、求人履歴のある企業を対象に求人状況調査を前年同様に年間3回(4・6・8月)で実施した。求人状況調査と同時に学内企業説明会の開催要望も積極的に聞き取ることで、具体的な採用機会の提供に繋がった。また各地の合同説明会や企業との各種団体主催の大学・企業交流会で本学PRの活動を実施し、「応募可能求人情報」を抽出して、学内ホームページの就職Web掲示板への掲出、対面・電話・郵送による個別連絡などを通じて、適宜学生へ情報提供を行うとともに応募を奨励した。

②固有のニーズに即応した求人開拓

就職情報企業や自治体・企業団体などが主催する「大学と企業との情報交換会」や近年数多く開催される「合同企業説明会」に積極的に参加し、本学学生の就職志向の強い業界の企業と直接接し、情報収集や求人開拓に取り組んだ。

2 公務員試験対策

(1) 公務員対策講座

2018年3月卒業生での公務員試験合格者は延べ8名(前年比1名増。内訳:県立施設1名、市役所2名、自衛官5名)であった。2019年卒向けの公務員試験対策講座は、教養試験対策に絞って8月に一般知能対策の4日間(8月22~25日で20時間)、9月に一般知識対策の4日間(9月26~29日で17.5時間と模擬試験)で、前年形式を踏襲し対策分野別に月を変え、分割受講可とした。延べ受講者数12名で、

前年 10 名とほぼ同程度の結果となった。民間企業の採用が好調で、民間企業への志向が強いことを示しているものと思われる。教養試験対策の夏期の講座からの応用編として一般知能分野の演習講座を 2 月に計 3 日間（2 月 19～21 日、15 時間）開講し、対策強化を図った。受講生は 10 名（前年度 12 名）であった。

（2）公務員ガイダンス

7 月 4 日に公務員に関するガイダンスを開催、学部 3 年次生を中心に 24 名が参加した。公務員の種類と仕事、採用試験の概要と試験対策のガイダンスを行い、また長浜市役所、京都府警へ講演を依頼し現役の職員の方から実際の業務や働きがいなどのお話を直接伺う機会を設けた。

（3）公務員試験資料の整備、強化

過去の試験問題の入手、サポートセンターでの閲覧用資料や問題集の整備、公務員試験

験要項の提供など、提供資料の一層の充実をはかった。

3 保護者（会）との連携

保護者会との連携協力のもと、就職支援にも取り組んだ。具体的には、保護者会総会でのご協力をお願いの他、以下のことに取り組んだ。

（1）保護者会との連携

6 月の保護者会において、就職をテーマとする分科会を開催し、本学での就職状況や支援、家庭での就活生との接し方、現在の就職活動の特徴などについて懇談した。

（2）保護者向け就職資料の作成

新入生の保護者に対し、本学のキャリア形成支援と就職支援に理解と協力を得ることを目的に、「本学学生の内定状況と就業力育成支援」の印刷物を作成、入学式後の保護者向け説明会で配布して説明を行った。また大学院新入学者の保護者向けにも同様に「大学院生の進路状況と就職活動支援」の資料を作成し、配布・説明を行った。

（3）広報誌「めいこう」で就職支援状況を周知

本学広報誌「めいこう」において、学生の就職状況ならびに本学の就職支援について情報発信をするとともに、家庭からもご子息の就職・キャリアサポートセンター利用をお勧めいただくよう訴えを行った。

（4）その他、保護者へのメッセージ発信

未内定者で連絡が取れない学生については、保護者に連絡を取らせていただき、現在の採用状況や動向などをお伝えしながら、保護者の協力を得て就職キャリアサポートセンターへの相談来室を促していただいた。

4 学外諸団体との緊密な連携

（1）ハローワークとの連携

ハローワークとの連携による就職支援は、通年で長浜ハローワークから新卒支援相談員の派遣（毎月 2 回、事前 Web・メール・電話予約制）を受けて、ハローワークへの登録手続きはじめ、ハローワークでの求人情報の検索や紹介、また既卒生に対する就職支援などの有効な支援を実施した。

（2）環びわ湖大学・地域コンソーシアム就職支援事業部会との連携

事業部会委員として県内大学間での就職情報の交換・支援研修を行うとともに、滋賀労働局、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、各自治体商工振興、ハロ

ーク、商工会議所など主催の「就職フェア・合同企業説明会」年間12回の開催に協力、学生には県内求人情報の提供と説明会参加を促した。

(3) 長浜市・米原市との連携

長浜市と米原市が、若者の地元への定着を促進し、また管轄内企業の発展、優秀な人

材確保を支援するために開催する「湖北就活ナビ2018」の実行委員として、今年度も10月13日(金)本学体育館に於いて、湖北の企業50社を集めた採用説明会を開催した。本学学生3名を含む大学・短大・専修学校の未内定学生65名の就職支援を行った。

(4) 滋賀県・岐阜県との連携

地元企業への人材輩出促進を図るため、12月15日(金)滋賀県商工観光労働部と岐阜県商工労働部から講師を招き「地元企業の魅力と探し方」と銘打った特別支援講座を開催した。参加者は13名と少なかったが、就職支援での両県との協力関係が結ばれた。

(5) 京都私立大学就職懇話会、中部学生就職連絡協議会との連携

京都府下、東海地区大学間の就職担当者との共同就職支援事業の実施を通じて、各地区大学・企業間の情報交換を行い、本学学生へ企業・求人情報の提供と支援講座内容の検討に活かした。

【5-1】学生募集

長浜バイオ大学では、アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を定め、多様な入試方式を設定し、理科が好きでバイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを学び、社会の役に立ちたいという意欲ある学生を募集した。

1 全体の入試結果

2018年度入試は入学定員管理の基準が前年度より厳しくなることから、合格者数の絞り込みを警戒した受験生が併願校を増やしてきた。インターネット出願の普及や入学検定料割引の拡充もあり、私立大学の延べ志願者数は12年連続の増加となった。これらの動向は私立総合大学志向の強まりと合格者数の絞り込みにより、中堅大学にも出願した受験生が多かったこと、「文高理低」傾向が昨年同様に顕著であり私立総合大学全体の入学定員では、文系の占める割合が多いため文系人気がそのまま志願者増加に繋がった。

2 本学の入試結果

学部全体の総志願者数は前年比124.0%と増加した。合格者数の絞り込みを警戒した受験生が併願校数を増やし、本学の入試施策複数数学科併願制度の無償化と特別奨学生制度の拡充が志願者増加に繋がった。アニマルバイオサイエンス学科の年内入試の歩留りが高かったことと、一般入試での特別奨学生選抜入試の拡充が学部全体の歩留を下げることなく3学科とも定員を充足した。臨床検査学プログラムの志願者は増加したが、他大学臨床検査学科新設の影響で入学者は減少した。

- (1) 指定校特別推薦入試は、推薦依頼高校を毎年拡大することで新たに推薦いただく高校を増やした。臨床検査学プログラムは昨年度より推薦依頼校を増やした。また、今年度が最後となるコンピュータバイオサイエンス学科については、独自パンフレットを作成し、推薦依頼対象校を全国に広げて募集した。
- (2) A0入試全体の志願者数は前年比163.1%と大きく増加した。「オープンキャンパス参加型」入試は、今年度から3学科募集とし入試方式を変更したことで増加に繋がった。「実験実習評価型」は志願者が分散したため減少した。
- (3) 一般公募制推薦入試は、11月に実施していた従来の2方式判定制度と、12月に多面的・総合的に評価する自己推薦型入試を実施した。他に、多種多様な学生を受け入れるため専門総合学科特別を実施した。11月には滋賀県内の高等学校在籍生を対象とした「地域特別枠」入試を新たに導入した。
合格者数の絞り込みにより厳しい入試になるのではないかという不安感から、公募制推薦入試での志願者は増加した。
- (4) 一般入試前期A・B学部全体の志願者数は前年比133.5%と増加した。大学入試センター試験利用入試は、平均点が昨年並みであった事と化学の平均点が上がり理科3科目の平均点に差異がなくなったことで、大学入試センター試験利用入試の積極的な出願につながり前年比137.1%と増加した。
この分野の全体の志望者が減少しているため、進路未定者が少なくなると一般入試中期後期は、志願者が減少した。
- (5) 私立大規模総合大学での合格者絞込により合格ラインが上がり、大都市圏の留学生入試は狭き門となった。留学生特別入試では、関東の日本語学校からの受験者もいて、昨年より多くの入学者を確保できた。

- (6) 学部全体の入試結果として、志願者総数は前年比 124.0%で女子占有率は 29% (昨年 26%) であった。出身都道府県別では岐阜県・大阪府の入学者が減少したが、福井県・愛知県・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県の入学者が増加した。全体の志願者が増加し、年内入試と一般入試前期での歩留が高く、昨年を上回る入学者を確保することができた。インターネット出願を A0 入試から新たに導入し、受験生への利便性と割引による検定料の負担を軽減し、入学試験の出願促進を行った。
- (7) 大学院入試については、博士前期課程の本学学部生の学内進学者を対象とした入試や一般入試、特別推薦、社会人入試、外国人留学生特別入試を実施した。就職環境が良いため学内進学者が減少したため定員確保とならなかった。特に学内生に対し低年次から大学院進学説明会を開催し、進学・研究への学習意欲を高めた。博士後期課程では学内進学者が多い年度だったため定員確保ができた。
- (資料①「2018 年度入学者統計資料」)

3 募集広報

- (1) 本学ホームページへ誘引するため、受験雑誌や Web サイトなどを活用し情報発信を行った。保護者、高校教員へのリアルタイムな情報発信として本学ホームページと Facebook を充実させ、「保護者・高校教員向けパンフレット」を発行した。高校生の多くが利用している LINE@でオープンキャンパスや入試情報を提供した。勉学や自主活動など顕著な活躍をした学生の出身高等学校に、その姿を報告する「カイツブリ通信」を発送した。地域での閲覧率が高い地域生活情報紙を活用し臨床検査学プログラムやオープンキャンパス、入試情報を効果的に発信した。イオン長浜店の協力を得て学生団体と一緒にイベントを開催し大学の広報活動をすすめた。東海圏に向けて、中日新聞で月 1 回の新聞広告と中日新聞進学ナビ (Web) で情報発信した。全国での本学知名度アップのため、全国紙と地方紙、記者などにプレスリリースをダイレクトに送信するサービスに参加した。
- (2) オープンキャンパスは 5 月・10 月に各 1 回、8 月に 2 回、合計 4 回開催し 712 名 (前年比 120.1%) の参加があった。5 月は健康フェスティバル、10 月は学園祭と同時開催とした。受験生の動き出しが年々早くなってきているため、5 月のオープンキャンパスでは前年比 187.9%と大きく増加した。
- 8 月 5 日・19 日の主なプログラムは、バイオ実験実習、研究室・最新研究設備公開、学生による研究室ポスターセッション、キャンパスツアー、バイオサイエンス学部説明会、臨床検査技師体験コーナー、入試説明会などを開催した。また、保護者対象の就職説明会や個別・住まいの相談コーナー、バイオ女子カフェ、支援センター紹介コーナーを設置した。19 日ではビワマスの試食会を実施したため参加者数減少を抑制できた。
- 10 月のオープンキャンパスは、有名予備校の講師を迎え、推薦入試 AB の英語対策講座と推薦入試 C の小論文対策講座を開催した。
- (3) 高校ガイダンスは高校生にバイオサイエンス・バイオテクノロジーと、その分野の持っている可能性や魅力、本学の学科・プログラム紹介、就職・進学、学生生活、キャリア教育、入試概要などを直接 PR できる機会であり、受験者・入学者実績を優先し積極的に参加した。本学通学圏内の高等学校からの依頼については実績が無くとも参加した。
- 今年度の参加件数は 230 件 (昨年度 259 件) で参加人数は 1,742 名 (昨年度 2,052 名) であった。
- (4) 高校訪問は、大学案内完成後 6 月～7 月にかけて 389 校 (昨年度 362 校)、入学試験要項が完成する 9 月～11 月に 371 校 (昨年度 373 校)、年間のべ 760 校 (昨年

度のべ735校)を訪問した。本学在籍生の学修状況の報告、入試情報の提供とオープンキャンパスの紹介や受験生の志望動向等の情報収集を行った。8月には京都・大阪の日本語学校へ在籍生報告のため訪問した。

- (5) 本学主催の高校教員対象大学説明会は、バイオサイエンス学部説明や入試概要と変更点、就職・進学状況(就業力育成支援での学生発表含)の説明をした。滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、岐阜、愛知、福井から高等学校21校21名(昨年度23名)の参加者があった。

【5-2】高大連携推進事業活動

1 事業の全体結果

2017年度の高大連携事業の全受講者は、入試担当から依頼を受けたガイダンス参加者を含め、延べ2,051名の児童・生徒・教員となった。2017年度入試募集において、高大連携事業及びガイダンスを実施した高等学校から70名の入学者の獲得に貢献できた。

2 各事業の内容及び結果

- (1) 「長浜学びの実験室」を活用した高大連携講座の実施では、三重県立桑名高等学校、岐阜県立大垣西高等学校、滋賀県立虎姫高等学校との講座を実施することができた。
- (2) 高大連携事業については、従来の出張型および来学型実験実習講座に加え、本年度より新たに始めた「長浜バイオ大学模擬講義」を展開し、滋賀県立虎姫高等学校、滋賀県立長浜北高等学校、滋賀県立伊吹高等学校、福井県立敦賀高等学校の4校で実施した。その結果、高大連携講座を実施した高等学校から22名の入学生獲得に貢献した。
- 京都 CAMPUS 河原町学舎を活用した高大連携事業については、2017年度は京都府教育委員会「府立高校活性化事業」に採択された京都府立北嵯峨高等学校との連携講座及び岐阜県立岐阜農林高等学校より日本生物学オリンピック本戦出場された生徒に対して行った実験指導で活用することができた。
- (3) 協定校との連携事業については、滋賀県立虎姫高等学校が実施する「バイオセミナー」、岐阜県立岐阜農林高等学校から日本生物学オリンピック本戦へ出場された生徒に対する実験指導、私立近江兄弟社高等学校との学部学科セミナーをそれぞれ実施し、高校との連携関係の深化に貢献した。
- (4) 教員対象研修事業及び教育委員会との連携事業では、滋賀県教育委員会「平成29年度滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座」、京都府教育委員会「子供の知的好奇心をくすぐる体験事業」、長浜市立東中学校の教員研修に協力し、滋賀県及び京都府内の小中高等学校へ本学の教学内容を伝えることができた。その結果、滋賀県教育委員会「平成29年度滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座」を受講された生徒から2名の入学生獲得に貢献した。
- (5) 業者主催の高校出張型模擬講義及び高校内ガイダンスについては、入試担当と連携して模擬授業、学部学科説明会及び職業理解講座等の高校内ガイダンスにも積極的に参加した。その結果、34校での模擬講義と80校での高校内ガイダンスの実施に協力することができ、実施した高等学校より46名の入学生獲得に貢献した。

【6】学習・就業力支援活動

学習・就業力支援センターは、教職協働による運営体制のもとで学生支援のより一層の充実を図ってきた。主体的な学習の推進と就業力の向上は、ともに学生1人ひとりの学士力保証の中心的課題であり、両者を個々に行うよりも相互連携することで相乗的効果が期待できる。

学習・就業力支援担当は、個別学習支援と就業力支援を有機的に連携させながら、入学前教育や初年次教育、キャリア教育を中心に学生の自主活動など、大学での学生生活を支援している。

1 学習支援の取り組み

専門教育に必要な基礎学力を涵養するために、学習支援センターに化学・生物担当の専任指導教員2名と一般教育科目担当の非常勤教員3名を配置し、スーパーバイザー教員のアドバイスのもと、学修カリキュラムとの連携を図りつつ学習支援を行った。主な学習支援は以下のとおりである。

(1) 対面指導による学習支援

学生からの基礎科目（化学、生物、数学、物理、英語）の質問や学習相談、履修相談、進路相談などに学習支援センター教職員が個別に対応した。2017年度の年間利用件数は1,504件（前年度1637件、対比8%減）で年間継続して利用する学生が減少したが、実人数は415名（前年度371名、対比11%増）と増加した。学生の質問内容は集約してデータベース化し、授業改善に役立てるため関連科目の担当教員に随時フィードバックを行っている。

(2) 基礎学力の強化のための取組み

初年次基礎科目の個別サポートと学習支援講座を実施した。化学を履修していない学生や苦手な学生を対象に基礎力アップ講座「溶液計算をモノにする講座」を3回、「化学の基礎をモノにする講座」を3回実施し、のべ約100名の学生が参加した。学習支援講座は一般教育科目担当の専任教員がアクティブラーニングによる運営を中心として全体的に内容の充実を図った。

また、学生の学習支援センターの利用を促進させることを目的に、学生が教職員と交流するイベントを実施した。実施した講座・イベントを以下に挙げる。

- ・「化学基礎」個別サポート講座
- ・基礎力アップ講座「化学」
- ・学びのセミナー
- ・数理系科目履修ガイダンス、学習支援センター履修相談会
- ・支援センター交流会「ラーニング・カフェ」
- ・読書イベント（読書習慣のきっかけづくり）

(3) 「学びのサイクル（PDCAサイクル）」を身につけるための支援と指導

1年次生にむけて、入学式後のガイダンスで学生が成長するために、目標設定・計画、ふり返りの重要性と、具体的な目標の立て方、ふり返りの方法について説明した。2年次生、3年次生にむけても期初のガイダンスでバイオ学習ワンダーランドのポートフォリオ機能を活用し、目標設定とふり返りを促した。

(4) 学習・就業力支援センターアンケート

学生の学習に対する意識や行動を把握することを目的として1年次生から3年次生を対象に、入学時、前期末、後期末には学生の学習状況と学習・就業力支援センター及びバイオ学習ワンダーランドの利用状況についてアンケートを実施した。

2 バイオ学習ワンダーランド（以下、WL と略す）の運用

本学が独自に開発した WL の円滑な運用のために、入学生は新入生ガイダンスで初期登録、利用方法の説明、出席登録サポートを行った。また、教員の依頼に応じて WL への問題登録や小テスト実施のサポートを行った。学生の WL 利用状況を把握するため、学習・就業力支援センターアンケートを実施しており、2017 年度前期アンケートの主なコンテンツの学生利用状況の結果は以下のとおりであった。

「お知らせ機能」を比較的良好に利用しているという回答が 72.5%であり学生の利用率は高かった。「資料公開」では、講義資料を比較的良好に利用しているという回答が 82.4%、習熟度別問題集を含めて試験対策として 63.1%、予習 38.6%、復習 44.0%の学生が利用していた。

「ポートフォリオ機能」については、出席状況の確認に週間ポートフォリオを比較的良好に利用しているという回答が 81.0%、成績の確認に期末ポートフォリオを比較的良好に利用しているという回答が 55.7%であった。

(1) 出席登録の支援

全学年において WL を利用した出席登録を行った。週間ポートフォリオの学生時間割に各自の出席状況を表示することで学生の自覚を促すとともに、教職員が個々の学生の出席状況全体を容易に把握できるため、就学困難な学生の早期発見につながった。

(2) コンテンツの充実

実験動物技術者試験対策をはじめ、教員が講義資料、課題資料、動画資料などの教材を WL に登録する講義や確認テストを利用する講義が増加している。支援センターアンケートの結果からも、学生が WL 機能のなかで講義資料の閲覧をよく利用していることがわかった。

(3) ポートフォリオ（以下、PF と略す）の指導と支援

学生が WL の PF を利用し、ふり返しを行うことで「学びのサイクル」を身につけ、主体的に学ぶ力を身につけるための指導を行った。入学時ガイダンス・期初・期末に WL の PF に記入を呼びかけ、記入内容を 1 週間ごとに確認し、気になる学生には声かけを行った。

3 入学前教育講座

A0 入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試の早期入学決定者を対象に、入学前教育を実施した。学習習慣の維持とスムーズな学生生活移行のサポートを目的に、12 月から 3 月までの 4 日間に英語、数学、化学、生物に関する基礎講義を行い、74 名（一般入試からの参加者 2 名を含む）が参加した（前年度 60 名）。早期入学決定者に対しては自習用の教材と課題を与え、入学前教育用 WL による e-ラーニングを活用して、入学までの期間の継続的な学習を促した。また、大学入学にあたっての様々な不安を解消し、大学生活が円滑に送れるように開始した研究室訪問や大学での学び方の講座、在学生との交流なども実施した。

4 キャリア科目の企画・運営

本学におけるキャリア教育は「柔軟力」「自律力」「論理的思考力」の育成を目標として、「学生の主体的な学びを確立する教育システムの構築」に取り組んできた。理系人材に必要とされる「論理的思考力」の育成については、キャリア教育においても重視している。情報収集力、情報分析力の習得を重点に置く 1 年次「大学での学びと実践方法」と、課題発見力、構想力、表現力の育成に重点を置く 2 年次「社会の問題と解決方法」は前期に配置し必修としている。1 年次及び 2 年次の夏期集中、後期及び春季集中ではチームでの協働作業を通じた「柔軟力」「自律力」の育成に比重を

置いている。1年次では特に“しょうがい”に焦点を当てた「共生社会と私たちの役割」、「働きがい」に焦点を当てた「社風発見インターンシップ」を通じて社会理解と社会適応を促し、2年次でより高度な課題に取り組めるようにしている。「柔軟力」や「自律力」の育成は、演習やPBLの手法を用いて長浜商工会議所をはじめとする地域社会との連携のもとに実施した。なかでも、「長浜魅力づくりプロジェクト」においては、長浜市中心市街地の商店街と連携してにぎわいを創り出すイベント「地の酒フェスタ+脱出ゲーム in 長浜」を1月に開催した。

学生の就業力育成を図る貴重な学習の機会であるインターンシップ実習は、就職・キャリア担当の協力ののもと、採用実績企業や実習受入れ先事業所との協定締結のもと実施し、学部3年次生24名、修士1年生1名の学生が参加した。

1年次から3年次には社会人基礎力診断テスト「PROG」を学習・就業力支援センターで実施した。「PROG」とは、知識を活用して問題解決する力であるリテラシーと人と自分に最適な状態をもたらす力であるコンピテンシーを客観的指標により評価することを目的としている。テストを受けることで自分の強みや課題が評価結果として学生にフィードバックされるとともに、授業改善の方向性を探るきっかけとなるよう調査分析を行った。

5 滋京奈地域の大学・産業界と連携した人材育成

滋賀・京都・奈良地区の大学と地元企業が中心となり地域に活躍する人材育成を目指して設立された「滋京奈人材育成協議会」に関する事業に関わった。本学からは2名が理事として協議会に参加し、社風発見インターンシップや地域創造インターンシップ、PBLに関する研究開発事業に取り組んだ。

6 就業力育成を目的とした学生自主活動支援

長浜市中心市街地の「町家キャンパス」は、学生が地域との連携を目指す自主活動「町家プロジェクト」など様々な活動の拠点となっている。

就業力育成につながる学生の自主活動として、地域活動と連携した取り組みを行った。「長浜人の地の酒プロジェクト」では、地元の農家や酒造と連携し、田植え、稲刈り等酒米づくりに関わるとともに、酒造りのプロセスを見学することでモノづくりの流れを体験した。

「梅酒プロジェクト」では、地元の酒蔵と連携して、梅収穫から漬込み作業、成分の経時変化の分析、ネーミングやラベルを含めた商品開発などモノづくりに主体的に関わって取り組んだ。

これらの活動で開発した商品は、教育課程内の科目である2年次「長浜魅力づくりプロジェクト(選択科目)」において実施する「地の酒フェスタ+脱出ゲーム in 長浜」(長浜市中心市街地の商店街と連携して賑わいを創り出すイベント)にも出店することでマーケティングまでの流れを体験することができた。

「サイエンスカフェ」は、複数の科学系学生団体が共同して町家キャンパスで行っている催しであり、さまざまな科学実験やクイズ等を経験してもらうことを通して理科好きの子どもたちを増やしたいという思いに支えられた活動である。この活動が評価され、2016年度に引き続き2017年度も環びわ湖大学・地域コンソーシアム「大学地域連携課題解決支援事業」に採択された。ほかの教育課程外活動として、「子ども長浜学」、「滋賀県ものづくりフェア」、「しごとチャレンジフェスタ」などにも取り組んだ。

7 就業力育成支援

就業力支援では、地域団体や企業と連携して行う PBL 型科目の授業を開講しているほか、プロジェクト科目等の運営に欠かせない地域との信頼関係づくりに寄与している。「共生社会の形成と私たちの役割」、「長浜魅力づくりプロジェクト」など地域の団体や企業と連携して行う PBL 型科目の授業は、町家キャンパスで開講している。

また、学生が年間を通して自主的な地域活動に取り組む際の学び場として大いに活用されており、2017 年度は、サイエンスカフェのほかにも町家キャンパスでの自主活動に拡がりが見られ、多くの市民の方や観光客が参加してにぎわった。

8 広報活動

学習・就業力支援センターが取り組む学習支援活動、就業力支援活動を学内誌や大学ホームページ、フェイスブック等を通じて、学内外に対して広報を行った。学生向けには学習・就業力支援センターの活用案内「支援センター☆なび」を作成し、新入生ガイダンスでは 1 年次生や教職員に配布した。

9 学生自習室の管理・運営

学生が友人と相談しながらの学習、キャリア科目の自主的なミーティングや作業、グループ学習、自習、学習・就業力スタッフへの質問・相談など自由に利用できるスペースとして学生自習室を管理・運営している。学生用のパソコンを増設し、学習やキャリア関係の図書や資料を充実させ、学生が利用しやすい環境づくりを行った。

【7】教育・学術情報センター活動

【図書部門】

1 資料の整備

(1) 学術雑誌

2017年購読の外国雑誌（オンラインジャーナル）については、2016年の契約交渉時に為替変動の影響が少なかったことや2016年からの2年契約を結んでいたこともあり、2016年に見直した雑誌を継続して購読することができた。2017年に契約を行う2018年の雑誌については、複数年契約が終了したことなどから価格の上昇が大きく、購読雑誌を削減する必要に迫られた。教育・学術情報センター委員会での検討により、臨床検査学PG担当教員より購読希望のあった雑誌1誌と入れ替えに、1誌プラス1セット（8誌）を購読停止することになった。また、2015年10月の消費税法の改正による消費税分の予算確保については、予算の増額が認められた。そのため、削減雑誌を最小限に抑えることができた。

国内雑誌については、2016年度に全教員対象の希望調査と合わせ、学生も含めた利用者全般を対象としたアンケートを実施して全面的な見直しをしたこともあり、2017年度は休刊雑誌以外すべて継続した。2018年度も大幅な購読誌の変更はしないことが委員会で決定され、利用者が少ない英字新聞の購読のみ削減することとなった。

(2) 図書資料

講義に関する資料については、講義使用テキストと担当教員指定最重要図書をわかりやすい場所にシラバスといっしょに別置した。最重要参考図書については、貸出用の複本も用意し、テキストも前期・後期と閲覧用資料を入れ替え、講義期間内は閲覧専用、講義期間外は貸出可能とした。そのほかの講義用資料も教員から希望があれば随時購入し、講義で利用する資料を事前に揃えることができるようにした。また複冊購入希望にも応じ、講義期間中は優先して利用できるよう対応した。講義使用以外の資料についても、利用者リクエスト同様、教員のリクエストも随時購入をしているが、メールでも呼びかけを行った。2017年度には退職教員から送られた資料など寄贈図書が多数あり、そのうち1,100冊あまりを受け入れ、手薄だった分野、2017年度は購入が少なかった分野（歴史・社会科学・芸術・文学）なども寄贈により所蔵冊数を増やすことができた。寄贈図書のなかで、すでに複冊所蔵のある本を中心に受け入れない資料については、古本募金の活用を試行し、2017年度は100冊（4箱）の資料を送った。英語多読資料は、基本的なシリーズは揃ってきたものの、多くのなかから好み、レベルに合わせて選ぶことができるよう、2016年度と同程度の冊数（約160冊）は増やすことができた。新しいシリーズや、これまで入っていたシリーズの上のレベルの資料も導入した。2017年度よりオンライン契約に切り替えた継続購入の洋書3シリーズ（Methods in Enzymology、Methods in Cell Biology、Advances in Applied Microbiology）はオンラインでの購入を継続した。

(3) 視聴覚資料

これまで継続購入していたナショナルジオグラフィックシリーズ、Discovery Channelなどが販売終了したことや購入予定のDVDの在庫がなくなっていることがあり、2017年度は30本と購入数は多くなかったが、講義での利用を想定して教員より推薦のあった資料を購入した。そのほかの作品については郷土資料や映画など、著作権処理済みの商品を購入し、館外貸出サービスも可能にしている。

(4) データベース

海外文献検索として、利用されてきた「SciFinder」を複数年契約で継続した。講習会を年1回行っており、2017年度は実習形式、完全予約制での講習会を行った。受講

者数減少傾向が続いていたが、2年連続で受講者数が増加した。2016年度より契約開始した新聞記事・企業情報データベース「日経テレコン21」も継続した。学内ホームページでの案内以外に、利用方法のパンフレットも図書室で用意している。

2 環境の整備

(1) 開館時間の延長

講義期間中の夜間2時間延長(19:00～21:00まで)、前期と後期の定期試験1週間前から期間中の朝1時間延長開館(8:15から)を2017年度も実施した。夜間(19:00～21:00)の図書室の受付は学生アルバイトを雇用して対応している。朝の開館利用は、前期は減っているが、後期は増加している。夜間の2時間延長時間内の入館者数は減少傾向である。

(2) 機関リポジトリ

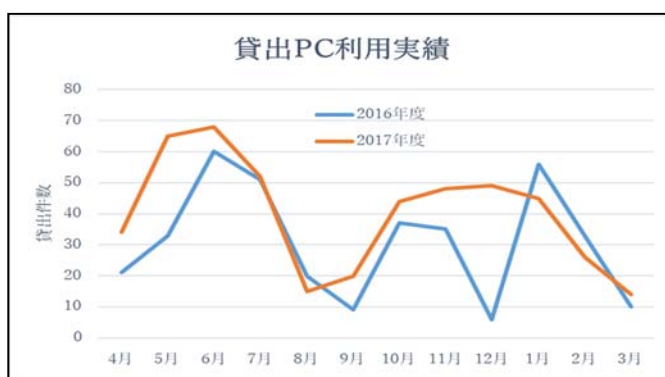
JAIRO Cloud(共用リポジトリサービス)を利用した機関リポジトリ「長浜バイオ大学リポジトリ」を2014年度から運用を開始している。2017年度からは、国立情報学研究所との連携・協力推進会議機関リポジトリ推進委員会が中心となって設立した「JAIRO Cloud」をはじめとする機関リポジトリシステムの共同運営コミュニティ「オープンアクセスリポジトリ推進協会」へ参加し、機関リポジトリを継続して運用した。

2013年～2017年度博士課程後期課程修了生の学位論文(要旨のみ含む)計16件を公表している。2014年度から2017年度の閲覧数、ダウンロード数を見ると、増加が著しいことがわかる。閲覧数は、2014年度から240、805、2297、2634件、ダウンロード数は、188、1229、4611、16215件となっている。

(3) 学習用パソコンの充実・高速充電ステーションの設置

図書室内学習席設置のデスクトップパソコンは24台、図書室外でも利用できる貸し出し用の軽量ノートパソコンは15台整備している。デスクトップパソコンは2017年度に全台リプレース(旧情報実習室のPCを使用)を行った。一部のパソコンについては、モニタをワイド画面に入れ替えた。貸出ノートパソコンの使用用途も広範囲になり、レポートの作成だけでなく、就職活動、クラブ活動やゼミのプレゼンテーション、講義利用など学内の様々なケースで利用され、有効に活用された。貸し出し後はメンテナンスを行ってから次に貸し出すなど、環境の整備にも努めた。

携帯端末高速充電ステーションは、充電による学内パソコン占有防止の解決策として、2014年度に4台からスタートし、利用者が多かったことから現在は8台で運用している。2017年度は新機種のスマートフォンに対応したケーブルに入れ替えた。



3 他部署・講義との連携・協力

就職活動関連本は図書室でも購入しているが、就職・キャリアサポートセンターが選んだ資料を図書室に移管し、閲覧・貸出できるようにしている。それらの資料は、企業情報や、ハウツー本、試験・面接対策本などといっしょに、図書室内に就職資料コーナーを設けて配架している。

入学後の早い時期に行われる1年次生必修科目の「大学での学びと実践方法」のなかでは、図書室の使い方、情報検索の方法、図書室の資料を使った調査学習などがあり、図書室を利用した講義となっている。「一般英語」では講義時間内に図書室へ来て、英語多読図書を読む時間が設けられ、その後の自主的な英語学習のきっかけとなっている。

資料の図書室外貸し出しの協力では、「バイオサイエンス専門実験」で、個人へは館外貸出を行っていない植物の辞典のほか、関係図書約100冊が講義教室で利用されている。2017年度は、学内で行われた木之本中学校の学びの実験室へ、授業のテーマに沿った資料をまとめて、中学生が授業をしている教室への館外貸し出しを行った。



4 学外・他大学との連携

私立大学図書館協会に加盟しており、相互協力協定、共通閲覧証協定など西地区部会京都地区協議会の活動を中心に参加している。

滋賀県内機関との連携では私立大学だけではなく、県内の国公立大学、短大を含めた図書館が参加する「滋賀県大学図書館連絡会」に加盟している。年二回の会合があり、2017年度は夏季に滋賀医科大学、冬季に龍谷大学（瀬田図書館）で、共通閲覧の利用状況や各館の活動報告など情報交換や業務での課題について意見交換を行った。また、滋賀県立図書館がオブザーバーとして参加していることもあり、県立図書館の新书推荐の情報を、図書室の広報に利用しているソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）「Facebook」から発信している。「Facebook」では、図書室の情報を学外へ向けて発信している。

電子ジャーナルの契約に関しては、加盟している大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の会員館向けに提案される契約条件を活用して契約を継続できた。契約雑誌以外からの論文入手方法として、図書室では、オンラインを使った他大学図書館、研究機関との相互貸借サービスの利用や公開論文などを提供することにより、学内の学生、研究者からの文献等取寄せ依頼に対応するよう努めている。

【情報部門】

5 情報実習室の環境整備（新環境へのリプレース）

命江館の情報実習室1、情報実習室2、情報実習室3について、前回のリプレースから5年が経過し、ハードウェア（PC、サーバ）の保守期限切れや、最新のソフトウェア環境への対応を行うため、年次計画に基づき実習環境のリプレースを実施した。

基本的な実習室の環境整備コンセプトは従来と同様である。情報実習室1・2は、基本的な情報実習やレポート作成、情報検索などの自習利用を想定している。このため

机上に PC を設置せずにフル HD モニタの背面に取り付ける方式を採用し、机上スペースを拡大させた。

情報実習室リプレースの概要

- 1) 実施対象施設
命江館 2F：情報実習室 1、情報実習室 2
命江館 3F：情報実習室 3
- 2) リプレース実施期間
2018 年 2 月 22 日～3 月 2 日
- 3) PC 仕様、台数
情報実習室 1：小型 PC、21.5 インチフル HD モニタ
[Core i5 / 8GB / 128GB SSD]
学生用 65 台、教員用 2 台
情報実習室 2：情報実習室 1 に同じ
情報実習室 3：超高速演算が可能な GPU を搭載したタワー型 PC
[Core i5 / 16GB / 512GB SSD / GeForce GTX 1080]
学生用 60 台、教員用 2 台
- 4) 実習環境
カラープリンタを常設
ネットブート方式による実習室管理を実施
センターモニタを置かず、ソフトウェアによる実習支援を実施（教員画面の転送等）
学内すべての PC の利用状況をリアルタイム表示（情報実習室前）

情報実習室 3 は主にコンピュータバイオサイエンス学科等で、PC の演算能力が必要となる実習（AI に関する実習など）を想定した構成としている。現時点で国内トップクラスの環境であることから、将来的には企業技術者向けや高校生向けの AI 人材育成講座などの開催も見込んでいる。

また、アンケートなどから学生からの要望が多かったカラープリンタも各教室に常設した。ただし、インクコストとの関係上、一人あたり 1 週間で 30 枚に制限している。



情報実習室 1・2（モニタの背後に PC を設置）



情報実習室 3（高速な GPU を搭載したタワー型 PC）

6 情報セキュリティの保全活動

2017年1月から施行された「情報セキュリティポリシー」を基に、学内情報資産の保全活動を行った。

情報セキュリティに関する啓蒙活動として、学生に対しては主に新生オリエンテーションでアカウント管理の重要性を説明し、またコンピュータ基礎実習等でも併せてパスワード管理の重要性を説明している。さらに、2017年度は、1年次生配当の必修科目である「生命倫理・研究倫理」にて、「情報倫理」に関する講義を教員の指示のもとで実施した。講義では、アカウント管理の重要性だけでなく、インターネットを利用する時の留意事項（SNSの利用や法令遵守）、マルウェア等の脅威について等、情報セキュリティに関する基本的な知識やマナーを指導した。

情報セキュリティポリシーについては、まだ対象者（教職員、学生含む）への周知は十分ではない。2018年度以降、順次説明会を開催し、学内全体の情報セキュリティに対する意識の向上を図る。

7 メール添付ファイルに対するセキュリティ対策の実施

情報セキュリティポリシーでは、基本的に学外への情報資産の持ち出しを禁止している。この方針を遵守し、さらにランサムウェアなどの新しい脅威にも対応できるように、メールセキュリティ製品の新規導入を行った。（2017年8月）

このシステムの導入により、メールを学外へ転送される際に、添付されているファイルに対して自動的にURL処理を施すことが可能となり、意図しない学外への情報資産（個人情報を含む）の持ち出しを抑制することができた。さらに、添付ファイルのマルウェア対策も強化することができ、学外からの不正なメール（スパム含む）のブロック率が向上し、併せてブロックを行ったメールを後から受信者が確認・制御できるようにした。

このシステム導入により、利用者の利便性を確保しつつメールに対するセキュリティを向上させることができた。

8 マイクロソフトとの包括ライセンス（Office365 サービス）

マイクロソフトと包括ライセンス契約（OVS-ES）は2017年度も締結し、マイクロソフト製品を学内すべてのパソコンに導入できるようにした。昨年度と同様、学内に設置している教育研究用パソコン、事務用パソコン他において、マイクロソフト製品の追加ライセンス費用は基本的に発生せず、さらに最新のバージョンを使うことが可能となった。

2017年度の実績としては、178台のPCに対して包括ライセンスで契約しているソフトウェアのインストールを実施した。主にOffice系ソフトのインストールが多いが、少し世代が古い性能上問題がないパソコンの再利用にも大いに活用している。特に、2017年度は、情報実習室のリプレースにおいても本契約を利用して最新の環境の導入を行った（台数が多いため、コスト削減効果は非常に大きい）。

得られた効果としては、ライセンス購入費の低減だけでなく、最新バージョンを提供できることによるセキュリティの向上、パソコンの再利用の促進（PC購入費の低減）、ライセンス管理の手間の削減ができた。

またOVS-ESの無償オプションとして、引き続き学生向けにOffice365サービスの提供を行っている。本学の学生であれば、在学中に限りOfficeが無償で利用できるため、金銭的にも大きなメリットがあるサービスである。新生に対するオリエンテーションにて、本サービスの説明を実施し、「教育・学術情報センター利用ガイド」（学内Webに公開）において、詳細なインストール方法を解説している。2017年度末では、約530名がOffice365サービスを利用して個人利用の端末にWordやExcel

を導入し、各自の課題・レポートの作成に活用している。また、インストールされているデバイス数は700台を超えており、1名が複数の端末（PCとiPad等）にインストールして活用している。

9 学生証のICカード方式変更と、即時発行体制の構築

外部の業者に委託していた学生証（教職員証）の発行について、各担当（学生担当、総務担当）との連携の上で、学内で即時発行できる体制を構築した。学内で発行することによって、大幅なコストダウンが可能となった。

さらに、従来採用していたICカードの方式を、より汎用的なFelica方式を採用することにより、様々な用途に応用が可能となった。まずは、図書室の入館ゲートで対応する予定である（2018年度予定）。

【8】IR活動

1 授業アンケートの実施

FD活動の一貫として開学から継続して実施している授業アンケートについて、IR室が実施・集計を行った。授業アンケートは、バイオサイエンス学部、及びバイオサイエンス研究科で実施されている「分子バイオ科学技術特別研究」、「統合バイオ科学技術特別研究」、「分子バイオ科学技術特別演習」、「統合バイオ科学技術特別演習」以外のすべての開講科目で実施した。各講義のアンケート結果は担当教員に返却し、さらに学生から質問のあった事項について教員からのコメントを付けて学内WEBに公開している。また、本アンケートの集計結果は、教務委員会における授業改善の提案やベストティーチング賞の選定などで活用された。

2 授業アンケートの見直し

授業アンケートについては質問文、選択肢を整理し、2018年度からより回答しやすい（迷わない）形式へと変更する見通しとなった。具体的には、“選択肢は1から5までの数字を選択させる方式に統一”することで結果を点数化し、講義間の比較がしやすい形式を採用した。本格的な実施は2018年度からであるが、先行して新アンケート形式を用いて、過去一度も実施していなかった「卒業研究」と「文献調査・講読」の授業アンケートを、卒業式の日を実施した。

3 IRコンソーシアム活動

(1) 学生調査の実施

本学が加盟している大学IRコンソーシアムについて、コンソーシアムで提供される大学間ベンチマークを実施するための共通アンケートである「学生調査」を実施した。学生調査は、1年次生調査と上級生調査に分かれており、それぞれ全員が必修となる後期の実験(実習)科目にて実施した。

対象学年	実施日	アンケート種別	回答対象者数	有効回答件数	回収率	備考
1年次	10月4日	1年生調査	289	256	89%	全員を対象に実施自然科学基礎実験II、IIIで実施
2年次 3年次	10月4日～ 10月10日	上級生調査	535	495	93%	全員を対象に実施応用実験(実習)、専門実験(実習)にて実施

(2) IRシステムへのデータ登録、ベンチマーキングの実施

2016年度に実施した「学生調査」の結果を、大学IRコンソーシアムが運用しているIRシステム(IRiS)に登録した(2017年5月)。これにより、会員校同士での相互比較が可能となった。相互比較の結果については、2017年10月の教授会に報告し、また学内のグループウェアにも教職員に対して公開し周知をした。本アンケート結果の一部は、広報用資料等にも活用されている。

【9】地域連携・社会貢献の活動

本学は、教学目標の一つとして「地域社会の発展や産業の振興」を掲げ、地元自治体・産業界・教育界・NPO法人等まちの人々との連携を強めながら幅広い地域連携・社会貢献事業に取り組むとともに、地域貢献事業への学生の自主活動と就業力育成を推進してきた。2017年度は同年3月に竣工した「命翔館」内の「長浜学びの実験室」で長浜市との連携事業「理系人材育成支援事業」を実施し、長浜市内の小中学校の児童・生徒を対象に実験観察授業を展開した。

また、小学校教員・中学校教員の理科教育研修を行い、保護者を含めた「夏休み！親子科学教室」や「土曜学び座」などを開催し、多くの長浜市内在住の受講生を受入れた。滋賀県内においては、本学の地域連携・社会貢献事業の実績をもとに、滋賀県との包括連携協定を締結し、県内連携事業のさらなる発展に貢献出来るように取り組んできた。また、4月には「滋賀発展成長産業の発掘・育成に関する連携協定」を県内6大学、金融機関、産業界、経済団体と締結し、産業の振興発展と地域の活性化に取り組むこととなった。

1 長浜市内の小・中学校等の理科教育の充実

(1) 「長浜学びの実験室」による小中学校生対象の授業

専任の実験補佐員(準備・実施指導補助・片づけ)を新たに配置したことで、13小学校及び7中学校の計20校を対象に年間47回(延べ49校)の実験観察授業を実施した。

回	学校名	学年	実施日	受講者数	単元等
1-4	西中学校	2年	4/24, 25, 26, 28	151名	植物と動物の細胞のつくり
5	虎姫中学校	1年	5/2	40名	水の中の小さな生物
6-10	南中学校	3年	5/8, 9, 10, 16, 17	151名	細胞分裂の過程
11	西浅井中学校	3年	5/15	34名	細胞分裂の過程
12	びわ北小学校	5年	5/19	16名	種子の発芽と養分
13-15	びわ中学校	1年	5/23, 24, 25	75名	花のつくりとはたらき
16	浅井小学校	5年	5/26	35名	メダカのとんじょう
17-18	びわ南小学校	5年	5/29, 30	41名	メダカのとんじょう
19	杉野小学校・伊香具小学校	5-6年	5/31	11名	メダカのとんじょう
20-22	長浜南小学校	5年	6/5, 6, 7	86名	メダカのとんじょう
23	七郷小学校	6年	6/19	12名	植物と水
24	朝日小学校	6年	6/21	23名	植物と水
25	古保利小学校	6年	6/26	16名	植物と水
26-28	長浜南小学校	6年	7/3, 4, 5	75名	自由研究
29	北郷里小学校	6年	9/26	31名	水溶液の性質
30	朝日小学校	5年	9/29	32名	メダカのとんじょう
31	伊香具小学校・余呉小学校	6年	10/2	26名	水溶液の性質
32-33	虎姫小学校	6年	10/4, 5	38名	水溶液の性質
34-35	木之本中学校	2年	10/16, 17	52名	動物の生活と生物の進化
36	虎姫小学校	4年	10/31	34名	季節と生物
37-39	東中学校	2年	11/6, 7, 8	94名	動物の生活と生物の進化
40-42	びわ中学校	3年	11/20, 21, 22	76名	遺伝の規則性と遺伝子
43-44	びわ中学校	2年	12/4, 5	64名	細胞分裂と生物の成長
45-46	速水小学校	5年	1/15, 16	57名	ものの溶け方
47	北郷里小学校	5年	1/19	32名	ものの溶け方

(2) 長浜市教育センター主催による長浜市自己啓発研修

長浜市内幼小中学校の教職員、幼稚園講師、認定こども園の保育教諭の約30名を対象とした「理科観察実験」と「長浜市小学校理科部会」を8月に実施した。

- (3) 小学生及び保護者対象理科実験講座「夏休み!親子科学教室」の実施
 学生自主活動や課外活動団体の協力のもと、長浜北高等学校の生徒による実験サポートの支援を得て8月の3日間に計6回開催し、229名の長浜市内在住受講生を受入れることができた。
- (4) 長浜公民館・養蚕の館からの依頼による小中学校生対象講座「土曜学び座」
 長浜小・長浜北小学校の児童及び保護者を対象に、専任教員による「ビタミンといきものの不思議」と題した講義と学生による「おもしろ科学実験」の講座を実施した。

2 「長浜生涯カレッジ」等の生涯学習講座事業

長浜市生涯学習文化課による地域の生涯学習活動の推進を目的とし、本学が中心となり、講座の検討・講師の派遣、施設提供等で地域の生涯学習の振興に貢献した。講座全15回のうち、問題発見講座1回、理論学習講座（土曜特設講座）の全5回は本学教員が講師を務めた。

問題発見講座				
回	月日	時間	テーマ	講師
1	6/24	13:00-16:00	開講式・植物と環境とのかかわり	学 長 蔡 晃植
理論学習講座 土曜特設講座				
回	月日	時間	テーマ	講師
1	7/1	13:30-15:30	びわ湖の水を守るためのバイオの試み	准教授 池内 俊貴
2	7/8	13:30-15:30	光で探るバイオ～見える光から見えない光まで～	教 授 白井 剛
3	7/22	13:30-15:30	魚のオスメスはどやうやって決まる？	准教授 竹花 佑介
4	11/11	13:30-15:30	メラニン色素細胞の機能を探る～皮膚だけでなく肺や心臓にもいるって本当？	教 授 山本 博章
5	11/25	13:30-17:00	サンショウウオの棲む湖北の自然環境・閉校式	教 授 齋藤 修

3 滋賀県・長浜市のNPO法人等との連携による地域振興事業

「いきいき健康フェスティバル」開催の施設提供と講座の実施

5月28日にNPO法人O次クラブ主催の健康フェスティバルを大学として後援し、実行委員として実施準備、施設提供、出展参加の協力を行った。本学教員による「こどものサイエンス」や臨床検査学プログラムのポスター紹介、野外ステージでの学生団体サークル活動が行われた。

4 滋賀県・長浜市他への学生団体による地域貢献活動

- ①長浜曳山まつり (4/14-15)
 命洗祭実行委員会などの学生有志が中心となり参加した。
- ②近江城下町ふるさとまつり (6/3)
 長浜市と町家プロジェクト、琵琶湖研究部、ハンドメイドサークルなどが「楽市楽座」に飲食ブースを出店した。
- ③わーくワーク北小タウン (7/22)
 町家プロジェクトが長浜北小学校に出向き、小学生対象の科学実験を行った。

- ④長浜なつまつり (7/29)
長浜商工会議所と命洗祭実行委員会、町家プロジェクト、グラフィック研究会が飲食ブースを出店した。
- ⑤湖北 PR 体験「湖北まるごとマネキンチャレンジ」 (7/29 他)
学生有志 16 名が長浜青年会議所に協力し、地域紹介イベントに参加した。
- ⑥サイエンスカフェ (8/13, 12/23, 3/18)
環びわ湖大学地域連携課題支援事業として、CELL 部、町家プロジェクト、動物研究会など学生団体が中心となり、町家キャンパスを拠点に科学実験や談話会を実施した。
- ⑦子ども長浜学 (8/18)
CELL 部が長浜市内公民館で小学生対象の科学実験を行った。
- ⑧コホクビジネスアカデミ (8/19, 9/18, 9/23)
長浜青年会議所が「えきまちテラス」で開催をしたイベントへの協力を行った。
- ⑨LOVE FOR KOHOKU (8/26)
長浜青年会議所まちづくり委員会が、豊公園一帯で開催したイベントに学生有志が参加した。
- ⑩しごとチャレンジフェスタ、滋賀ものづくりフェア (10/28, 29)
滋賀県教育委員会、滋賀県職業能力開発協会によるイベントに CELL 部や町家プロジェクトが出展し、小学生対象の科学実験を行った。
- ⑪湯田小フェスタ (11/11)
長浜市立湯田小学校 PTA 主催イベントに町家プロジェクトが参加し、小学生対象の科学実験を実施した。
- ⑫六荘健康フェスティバル (11/12)
六荘地区地域づくり協議会による公民館でのイベントに、グラフィック研究会が体験ブースを出店した。
- ⑬きのもと・ぐるぽ市 (11/18-19)
木之本自治会女性部による長浜市明楽寺で開催されたイベントに、町家プロジェクトが体験ブースを出店した。

5 「TANAKAMI」 こども環境クラブの実験指導

大津市南部の田上地域を活動拠点に生き物調査・自然体験活動を行っている児童・生徒が本学教員の指導のもとメダカの実験に取り組んだ。実験結果については、世界湖沼会議の青少年会議で発表される予定。

6 「わくわく学習会」での小学校対象実験講座

豊郷町立豊郷小・日栄小に学生自主活動団体が出向き、夏休み中のこども達に自主学習を中心とした理科実験を行った。

7 大府商工会議所役員研修

会員企業等の代表者約 30 名が来学し、本学の教育・研究・社会貢献や地域連携活動の取り組みについて研修を行った。研究室紹介では、複数の研究室を訪問し、担当教員の説明や研究成果について熱心に耳を傾けていた。

8 田村駅周辺整備ワークショップの開催

田村駅周辺整備基本計画の策定に向けたワークショップを学内で開催した。駅が単なる駅舎機能を持つだけでなく、人の集まる拠点として機能するよう駅周辺を含めた

利用しやすい周辺整備計画に反映させるため、19名の学生が出席し活発な意見交換を行った。

9 地域連携推進の取り組みを掌握・学内外への情報発信

本学教職員・学生が取り組む地域連携・社会貢献の活動についての情報を集約し、本学ホームページや学園通信『めいこう』において地域活動の取り組み記事を随時掲載し発信した。また、滋賀県や長浜市の各自治体、地元経済団体等が発行する地域連携活動紹介の広報物への記事掲載等にも積極的に取り組んだ。

【10】国際交流の活動

1 西オーストラリア大学短期留学特別プログラム

2015年度に実施した3週間の上記プログラムの経験を生かし、改善点を検討したうえで、より充実した留学プログラムを2017年度は実施した。「海外英語研修」として5週間の西オーストラリア大学短期留学を目的とする新規科目をカリキュラムに設置し、単位認定を実施した。14名の参加者があり、留学前の事前学習で留学の準備を行い、留学後の事後学習でその成果を発揮することができた。

2 留学生の受け入れ

2013年1月にタイ王国のカセサート大学と学術交流協定を結び、工学部のコンピュータ工学科および材料工学科からのインターンシップ生を受け入れた。2017年度は5名のインターンシップ生を受け入れた（今までの受入者数は2013年度3名、2014年度4名、2015年度10名、2016年度6名）。留学生が配属された研究室では、本学学生と英語での交流があり、異文化理解ならびにコミュニケーション形成に役立っている。

3 交流協定締結に関して

2016年度にタイ・カセサート大学の農業産業学部及び農学部との間で学生の交流とインターンシップの協定を締結した。2017年度は、中国・東北大学の生命科学健康学院、および遼寧大学間において、国際交流を深めるために学生、教職員の交流協定を結ぶことを前提とした調査を実施した。

【11】施設設備等

1 既存施設の改修

(1) 命北館の全面打診による外壁調査

建築基準法で築10年を経過した建物の全面打診等による外壁調査が義務付けられており、2007年竣工の命北館（大学院棟）、2009年竣工の命北館（新学科棟）の外壁調査を実施した。タイルの浮き等の不具合箇所は壁全体面積比から0.02～0.03%と非常に少なく、剥離落下の危険性が見られる箇所はなかった。建築基準法の規定により、当該建築物の敷地（地盤沈下等による不陸、傾斜、敷地の内の排水、通路の状況）構造（基礎・躯体・屋上等の損傷状況）および建築設備・施設（消防設備・避難設備（排煙設備・非常照明等））の特殊建築物状況を3年ごとに特定行政庁（長浜市）に報告する必要があるため、2017年度が報告年度であったため今回の外壁調査結果も併せて報告を行い、大学施設が適正に維持保全されていることが確認されていることを証する特殊建築物定期調査報告済証の交付を長浜市から受けた。

(2) 外壁飾り壁（タイル）シール打替工事

外壁飾り壁のシール（伸縮目地）は築後10年以上経過すると油分が抜けてシール自体が硬化し、目地の伸縮に対応出来なくなってひび割れや隙間が発生し、雨水が入るとタイルの剥離・罅割れの原因となる。そのため、一期工事（2003年竣工）の建物（エントランス・命江館・命岳館・体育館・学生寮）は、年次計画でシーリングの劣化を補修するための外壁シール打替工事を実施している。2017年度は学生寮（国際交流ハウス）の外壁シール打替工事を実施した。学生寮については打放しコンクリート外壁部分にクラックが生じ、雨水が回ってしまっていると思われる白華現象（エフロレッセンス）箇所が複数あり、今回の外壁シール打替工事と併せて、クラックにエポキシ樹脂注入を行い、外壁全体の高压洗浄を実施後、クラック部エポキシ樹脂注入跡が目立たないようにセラミクリートシリコン（高浸透性吸水防止剤）の表面塗装施工を併せて実施した。

(3) 命岳館屋上のクラック改修

命岳館屋上の打放しコンクリート外壁部分にクラックが生じ、雨水が浸透し白華現象（エフロレッセンス）箇所が複数あったため、奥行きが深い罅割れにも時間をかけてゆっくり確実にエポキシ樹脂注入することが可能なボンドシリンドー工法でクラック補修工事を実施した。

(4) 体育館北側クラブ部室の屋根等の改修

体育館北側部室（プレハブ2階建）が経年劣化で損傷箇所も多くなってきたため、屋根修繕、樋取替え、階段目隠し風よけパネルの取替え、手摺りや柱の錆を落として脆弱な旧塗膜の除去を行い、錆止めを塗布し、密着性・耐久性に優れているウレタン塗装の修繕・改修を実施した。

(5) 貯水槽・排水槽の塗装改修工事

本館貯水槽・学生寮貯水槽・実験排水槽の水槽外部表面が紫外線や風雨で経年劣化し、強度低下を引き起こしている可能性があるため、太陽光線を遮断し、藻の発生を抑制する効果があり、槽本体の耐久性を高め、低汚染性に効果がある塗装改修工事を実施した。

(6) 実験排水ポンプの更新

各建屋から排水される実験排水を実験排水槽までポンプアップする排水用ポンプが経年劣化で汲み上げ能力が低下しているため、命北館（大学院棟）北側通路マンホー

ル内非自動型実験排水用ポンプ2台、実験付属施設水槽室前通路マンホール内自動運転型実験排水用ポンプ2台の各ポンプを更新した。

(7) 命翔館への防犯カメラの増設

命翔館が2016年3月に竣工し、2016年度後期より臨床検査学プログラムの実験実習も本格的に開始され、臨床生理学実習室には2017年度にかけて臨床生理学実習で使用する超音波診断装置、血圧脈波検査装置、脳波計、心電計といった高額医療機器が整備された。長浜学びの実験室には長浜市から助成を受けて整備した実験機器、各階のアクテブラーニングルームには文科省の助成を受けて整備した什器備品があるため、廊下・風除室の共用部分に防犯のため、1階に2台、2階・3階に各1台の合計4台の防犯カメラを増設した。

(8) 印刷機の更新

印刷室に設置しているRICOH Satelio DU08(2008年導入)について使用開始から9年が経過し、印刷枚数も500万枚を超え保守対応も難しくなったため、学習教材を印刷する上で細胞組織など複雑な写真を鮮明に出力する事が可能な高性能印刷機EPSON LX-10000に更新した。

2 研究機器等の整備

(1) 超純水製造装置・純水製造装置の更新

主にバイオサイエンス学科とアニマルバイオサイエンス学科で行われている学生実験に使用している超純水製造装置、純水製造装置の更新については、本学全体の設置台数の適正、運用方法を見直すことで財政的にも効率的な運用が図れるように前年度に検討し、最終的に全学では純水製造装置(Elix5)が4台に、超純水製造装置(Milli-Q)2台という整備更新計画とし、年次計画で前年度は超純水製造装置Milli-Q Reference、純水製造装置Elix Essential UV 5各1台を購入した。2017年度は超純水製造装置Milli-Q Reference、純水製造装置Elix Essential UV各1台を購入した。

(2) 大容量ストレージ計算サーバーの整備

2016年度に文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金の採択を受け整備した次世代シーケンサーミニセックシステムMiniSeq System SY-420-1001により、大容量のゲノムトランスクリプトームデータを解析することが可能となったが、大容量のデータを解析するには、多数のCPUコアのみならず、膨大なメモリ空間と大容量ストレージが必要となったため、データ解析処理性能要求を満たす大容量ストレージ計算サーバーPOWER MASTER Server S5080を購入した。大容量ストレージ計算サーバーの導入により、次世代シーケンサーで行った高品質な大容量の解析データを迅速に高精度に処理することが可能となり、解析依頼者となるバイオサイエンス学科・アニマルバイオサイエンス学科の教員とコンピュータバイオサイエンス学科教員との深いレベルの解析は教員間のより良い関係と共同研究が推進され、さらなる新たな研究の進展が期待できる。

(3) Orbitrap Q Exactive 質量分析システムの設備

学長のリーダーシップの下、大学の特色のある研究を基軸として、全学的な独自色を打ち出す取組を行う大学に対し、施設・設備費と経常費を一体的に支援する文科省私立大学研究ブランディング事業(事業名「フレキシブル植物工場システムと先端バイオ技術を基盤とした新たなグリーンイノベーション」)で選定を受け、2017年度は文部科学省私立大学研究設備整備費等補助金(私立大学ブランディング事業に係る研究設備)の助成を受け、Orbitrap Q Exactive 質量分析システムを整備した。

本研究設備は、本事業での研究展開に欠かせない超微量のタンパク質を用いたプロテオミクスや多くのサンプルのメタボロミクス解析、安定的な高分解質量分析による物質の構造解析などを可能とし、この設備を用いた研究成果が新たな地域産業の振興と新たな研究の進展に期待できる。

【12】長浜バイオ大学保護者会

1 保護者会定期総会の開催（2017年6月4日）

保護者会定期総会が開催され、138名の保護者が出席した。

2 保護者懇談会の開催（2017年6月4日）

保護者会定期総会後に、大学との共催による保護者懇談会が開催され、231名の保護者が出席した。全体説明会では、学長による全学的な教育・研究方針の説明、大学院研究科長による大学院教育およびJABEEプログラムに関する説明、就職・キャリア担当副機構長による就職に関する説明が行われた。また、合成生物世界大会への出場を目指す学生の自主活動団体 iGEM Nagahama、本学学生と教職員が長浜市の農家や販売店と連携して取り組む長浜人の地の酒プロジェクト、町家キャンパスを活用したサイエンスカフェの活動について、学生自身による紹介が行われた。グループ懇談会では、テーマ別に分かれ、質問に対する回答を行う形式で、本学教職員と保護者の懇談が行われた。

3 役員会の開催（2017年5月12日、2018年2月10日）

役員会を2回開催し、2018年度事業計画・2018年度予算などの審議を行った。

4 助成事業

学生自主活動（iGEM Nagahama など）、新入生フレッシュャーズキャンプ実施費用、就職関連事業、学生の資格取得費用などに対して助成を行った。

【13】京都高齢者大学校

開校5年目である2017年度は、5つの新規講座を開講し合計19講座となった。受講生は464名で昨年度より171名増加し過去最高を更新した。特に新規開講した「京都市交響楽団員による音楽教室」は早期に定員（65名）締め切りとなる人気講座となり、受講生の増加に寄与した。また、受講生の居住地は、京都だけではなく大阪などの関西圏にも広がりつつある。

2017年9月より新たに開講をした北近畿校は、福知山公立大学を会場として、3講座合計で118名の申込者があった。

事務局運営では、受講生の中から複数の運営協力者があり活発化した。事業規模が拡大していることから、運営体制も強化した。

財政面では、受講生の増加に伴う収入増により、運営費の赤字額が大幅に改善し、ほぼ収支均衡がとれるようになった。なお、本学は例年通り会場提供、本学教員の講師派遣、運営費補助等の協力を行った。

以上

資料①入学者統計資料（過去4ヶ年）

2018年4月アドミッションオフィス

学科・PG	定員				志願者数				受験者数				合格者数				倍率				入学者数				
	18年	17年	16年	15年	18年	17年	16年	15年	18年	17年	16年	15年	18年	17年	16年	15年	18年	17年	16年	15年	18年	17年	16年	15年	
バイオサイエンス学科	指定校特別推薦	10	10	15	15	13	11	11	15	12	11	11	14	12	11	11	14	1	1	1	1	12	11	11	14
	一般公募制推薦ABC地域	29	31	37	33	186	202	205	222	186	201	198	216	157	178	176	191	1.2	1.1	1.1	1.1	32	33	42	47
	A0（実験実習評価型）入試	3	3	5	5	2	9	12	11	2	8	12	11	2	7	12	8	1	1.1	1	1.4	2	7	12	8
	A0（オープンキャンパス参加型）入試	2	-	-	-	9	-	-	-	9	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-
	前期AB・前期ABﾌﾞﾗｽｾﾝﾀｰ1	50	50	56	50	590	565	669	659	578	560	659	645	442	384	355	309	1.3	1.5	1.9	2.1	81	61	56	66
	中期・中期ﾌﾞﾗｽｾﾝﾀｰ2	10	10	15	15	63	114	112	143	60	105	109	140	36	73	91	66	1.7	1.4	1.2	2.1	13	21	30	24
	後期	5	5	5	5	30	45	43	55	28	44	41	48	11	23	36	42	2.5	1.9	1.1	1.1	1	9	21	21
	センター利用 前期AB	14	14	10	20	141	122	158	179	140	121	158	179	103	96	93	90	1.4	1.3	1.7	2	17	11	12	8
	センター利用 中期	5	5	10	5	6	12	12	13	6	12	12	13	4	9	8	7	1.5	1.3	1.5	1.9	1	1	1	2
	社会人	若干名(上記に含む)				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0
留学生	若干名(上記に含む)				11	8	5	2	9	7	5	2	6	5	4	2	1.5	1.4	1.3	1	6	4	3	1	
計	128	128	158	148	1051	1088	1227	1299	1030	1069	1205	1268	782	786	786	729	1.3	1.4	1.5	1.7	170	158	188	191	
臨床検査学PG	指定校特別推薦	2	2	-	-	0	2	-	-	0	2	-	-	0	2	-	-	-	1	-	-	0	2	-	-
	一般公募制推薦AB地域	5	4	-	-	34	37	-	-	34	36	-	-	22	9	-	-	1.5	4	-	-	8	3	-	-
	前期AB	14	15	-	-	58	40	-	-	56	40	-	-	29	22	-	-	1.9	1.8	-	-	5	7	-	-
	中期	2	3	-	-	10	14	-	-	8	12	-	-	3	10	-	-	2.7	1.2	-	-	2	7	-	-
	後期	2	1	-	-	8	4	-	-	7	4	-	-	5	3	-	-	1.4	1.3	-	-	3	2	-	-
	センター利用 前期AB	4	4	-	-	48	25	-	-	48	24	-	-	23	13	-	-	2.1	1.8	-	-	4	4	-	-
	センター利用 中期	1	1	-	-	1	5	-	-	1	5	-	-	1	3	-	-	1	1.7	-	-	0	1	-	-
	計	30	30	-	-	159	127	-	-	154	123	-	-	83	62	-	-	1.9	2	-	-	22	26	-	-
バイオサイエンス学科 合計	158	158	158	148	1210	1215	1227	1299	1184	1192	1205	1268	865	848	786	729	1.4	1.4	1.5	1.7	192	184	188	191	

アニマルバイオサイエンス学科	指定校特別推薦	2	2	2	2	4	2	2	4	4	2	2	4	4	2	2	4	1	1	1	1	4	2	2	4
	一般公募制推薦ABC地域	11	12	12	12	148	98	78	92	147	97	78	90	79	71	68	81	1.9	1.4	1.1	1.1	13	16	18	15
	A0（実験実習評価型）入試	2	2	2	2	7	9	9	2	7	9	9	2	3	8	9	2	2.3	1.1	1	1	3	7	8	2
	A0（オープンキャンパス参加型）入試	1	-	-	-	10	-	-	-	10	-	-	-	10	-	-	-	1	-	-	-	9	-	-	-
	前期AB・前期ABﾌﾞﾗｽｾﾝﾀｰ1	17	17	17	17	422	243	317	312	413	241	317	309	110	149	164	143	3.8	1.6	1.9	2.2	22	13	28	18
	中期・中期ﾌﾞﾗｽｾﾝﾀｰ2	5	5	5	5	51	37	58	54	49	35	57	54	10	22	15	32	4.9	1.6	3.8	1.7	3	4	1	8
	後期	2	2	2	2	28	22	32	21	26	22	30	19	4	17	4	19	6.5	1.3	7.5	1	0	9	1	5
	センター利用 前期AB	8	8	4	8	72	48	47	62	71	48	47	62	18	32	30	27	3.9	1.5	1.6	2.3	3	6	3	3
	センター利用 中期	2	2	4	2	2	3	4	1	2	3	4	1	1	2	1	0	2	1.5	4	-	0	0	0	0
	社会人	若干名(上記に含む)				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0
留学生	若干名(上記に含む)				3	2	0	1	3	2	0	0	2	2	0	0	1.5	1	-	-	1	1	0	0	
計	50	50	50	50	747	464	547	549	732	459	544	541	241	305	293	308	3	1.5	1.9	1.8	58	58	61	55	

バイオサイエンス学部	指定校特別推薦	2	2	2	2	5	6	5	7	5	6	5	7	5	6	5	7	1	1	1	1	5	6	5	7
	一般公募制推薦ABC地域	8	7	7	10	70	16	38	59	70	16	38	59	67	14	33	54	1	1.1	1.2	1.1	7	4	3	2
	A0（実験実習評価型）入試	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-	-	-
	A0（オープンキャンパス参加型）入試	1	若干名	-	-	3	1	-	-	3	1	-	-	3	1	-	-	1	1	-	-	3	1	0	0
	前期AB・前期ABﾌﾞﾗｽｾﾝﾀｰ1	11	11	11	13	221	119	128	135	213	119	128	132	179	102	108	110	1.2	1.2	1.2	1.2	9	16	6	17
	中期・中期ﾌﾞﾗｽｾﾝﾀｰ2	2	2	2	3	28	26	17	42	25	22	16	42	20	18	14	35	1.3	1.2	1.1	1.2	3	1	2	5
	後期	1	1	1	2	17	15	14	13	17	14	14	12	14	13	14	12	1.2	1.1	1	1	3	5	1	2
	センター利用 前期AB	2	4	2	6	31	18	26	27	30	18	26	27	27	13	17	22	1.1	1.4	1.5	1.2	2	2	4	4
	センター利用 中期	1	1	2	2	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0
	社会人	若干名(上記に含む)				0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0
留学生	若干名(上記に含む)				1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0
計	30	30	30	40	376	203	230	284	364	198	229	280	315	167	191	240	1.2	1.2	1.2	1.2	32	35	21	37	
バイオサイエンス学部 合計	238	238	238	238	2333	1882	2004	2132	2280	1849	1978	2089	1421	1320	1270	1277	1.6	1.4	1.6	1.6	282	277	270	283	

博士課程前期課程 学内	一般・留学生・社会人	36	36	36	36	46	70	55	64	44	70	55	62	39	64	49	54	1.1	1.1	1.1	1.1	29	45	35	44
	計	36	36	36	36	48	73	57	72	46	73	57	70	41	66	51	57	1.1	1.1	1.1	1.1	30	46	36	47

博士課程後期課程 学内	一般・留学生・社会人	5	5	5	5	4	2	5	6	4	2	5	6	4	2	5	6	1	1	1	1	4	2	5	6
	計	5	5	5	5	5	2	5	6	5	2	5	6	5	2	5	6	1	1	1	1	5	2	5	7

※大学院入試（10月入学）を除く